

# 女子大学生の国内旅行に対する意識の定量分析

－ 女子旅に着目して －

## Quantitative Analysis on the Consciousness of Female University Students' Domestic Tour: With a Focus on Female Tour

安積 晴香

AZUMI, Haruka

環境政策・計画学科において学士（環境科学）の学位授与の資格の  
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した卒業研究論文

2013 年度

承認

松本健一



# 女子大学生の国内旅行に対する意識の定量分析

## —女子旅に着目して—

松本研究室 1012001 安積晴香

### 1. 背景・論点

日本では、2012年に観光立国推進基本計画が閣議決定され、2016年までの基本的な目標として、国内旅行における旅行消費額30兆円（2010年は23.8兆円）、年間平均宿泊数2.5泊（2010年は2.12泊）が掲げられている。現在、日本国内における旅行消費額と国内観光旅行による1人当たりの宿泊数は、ともに減少傾向にある<sup>1)</sup>。そのため、基本計画を導入し、具体的な目標を掲げることで、観光の立て直しを図ろうとしている。効率よく基本計画の目標を達成するためには、現在最も行動者数が伸びている種類の旅行の取り組みを強化することが有効であろう。

観光分野における流行は、女子旅である<sup>2), 3)</sup>。旅行業界は、女性ならではの特性に注目し、女性をターゲットにした旅行商品の開発を進めている。その結果、現在多くの女性が女性だけで旅行に行くようになり、女子旅ブームを起し始めている<sup>2)</sup>。

一方、近年の国内宿泊観光需要の低下の要因は、若年層の旅行行動の低下であることが明らかとなっている<sup>4)</sup>（図1）。この傾向から観光活動を行わない若年層は将来も観光活動を行わないという事態も懸念され、今後の旅行業界において大きな問題とされている<sup>5)</sup>。

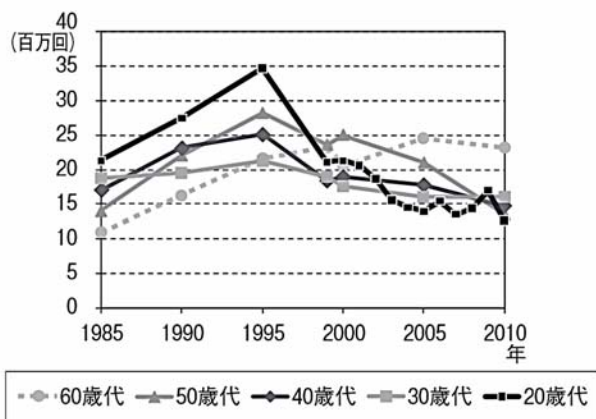


図1 年齢階層別国内宿泊観光旅行のべ回数<sup>4)</sup>

先行研究<sup>4), 5), 6), 7)</sup>において、若年層の旅行行動に関する研究は行われているが、新しい旅行分野となり得る女子旅に特化した分析はない。

そこで本研究では、女子旅と若年層の双方を踏まえ、女子大学生の女子旅に対する意識について分析する。なお、本研究において、女子旅は2人以上の女性だけで行く宿泊の有無を問わない国内旅行と定義する。また、若年層として大学生を対象とする。

### 2. 研究の目的・意義

本研究の目的は、女子大学生による女子旅における旅行行動の実態を把握することにより、購買意図に関する要因間の関係をモデル化し、旅行行動を阻害および促進する要因を明らかにすることである。

本研究の意義は、女子大学生の観光行動の要因の強弱や要因同士のつながりを明らかにすることにより、女子大学生の旅行行動を促進し、観光立国推進基本計画の目標達成へとつなげることである。そして、女子大学生という若年層の旅行意向を明らかにすることで、持続可能な観光に寄与することである。

### 3. 研究方法

#### (1)研究方法

まず、文献調査により仮説モデルを構築する。そして、仮説モデルを検証するためのデータを、アンケート調査によって取得する。アンケート調査で得られたデータを用いて、仮説モデルによって構築された構成概念間の関係を共分散構造分析により検証する。共分散構造分析には、IBM SPSS Amos 22.0を用いた。

#### (2)研究対象

本研究では、若者の旅行・行楽行動者率の高い都道府県を対象地として、女子旅に対する女子大学生の行動要因を抽出する。そのため、平成23年社会生活基本調査<sup>8)</sup>より、都道府県別15~24歳女性の旅行・行楽の種類別行動者率が最も高い滋賀県を対象地とする。そして、滋賀県に所在する4年制大学に通う女子大学生を分析対象者とする。アンケート調査の許可を得られた大学は、立命館大学（びわこ・くさつキャンパス）、龍谷大学（瀬田キャンパス）、滋賀県立大学、成安造形大学、滋賀医科大学、聖泉大学、長浜バイオ大学、びわこ学院大学の8大学である。

#### (3)仮説モデルの構築

金・鎌田<sup>9)</sup>のモデルの構造と林<sup>10)</sup>で明らかとなった促進要因と阻害要因に基づき、本研究では図2の仮説モデルを構築した。

#### (4)アンケート調査の概要

まず、調査対象である8大学に通う女子大学生の人数比からアンケート配布枚数を決定した。共分散構造分析では、一般的に200サンプル必要である。本研究では、有効回答数を考慮し、合計配布枚数が400枚となるように配布枚数を設定した。調査方法は、調査対象大学において、指定された調査場所を

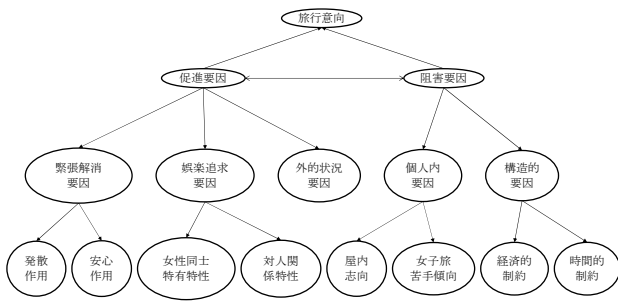


図2 女子大学生の旅行に対する購買意図の仮説モデル

通った女子大学生にアンケート票を配布し、その場で記入してもらい、直接回収した。調査期間は、2013年10月26日から11月11日である。

アンケートの調査項目は、属性や女子旅の実施状況などに関するものと共分散構造分析で使用するデータとなる女子旅についての考えに関するものとした。女子旅に関する既存の調査が存在しないため、女子会に関する調査<sup>3), 11)</sup>に基づき質問項目を設計した(表1)。

問8では、女子旅経験の有無に関係なく女子旅に対する考えを尋ねている。回答方法は、「まったくそうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらでもない」、「どちらかといえばそうである」、「まったくそのとおりである」の5段階評価である。

#### 4. 結果・考察

##### (1)単純集計の結果と考察

アンケートの回収を行った結果、有効回答率は89.4%であった。

回答者の女子旅経験率は78%であった。これは、有職者の女子旅経験率より若干低い割合である<sup>3)</sup>。

女子旅の催行者人数は、自分を含めて3人以上と回答した人が多かった。未婚女性が友人と行く旅行の同行人数で最も多いのが2人で42.8%ある<sup>12)</sup>。この結果と比較すると、女子大学生は一般的な未婚女性より大人数で行く女子旅が多い傾向にあると言える。

##### (2)共分散構造分析の結果と考察

###### 1)分析結果

仮説モデルに対し共分散構造分析を行った。モデルでは識別性確保のため、図3に示す潜在変数から潜在変数または観測変数へのパスにおいて、すべて一番左側のパス(例えば、発散作用から観測変数Q1・Q2へのパスであれば、発散作用→Q1のパス)にパス係数1を固定する制約を課し、最尤法により解を求めた。

モデルの適合度は、4つの指標(GFI, AGFI, CFI, RMSEA)を用いて判断する。仮説モデルに対する分析の結果、GFI = 0.829, AGFI = 0.805, CFI = 0.819,

表1 最終モデルでの潜在変数と観測変数

潜在変数		設問	観測変数(質問項目)
緊張解消要因	発散作用	Q1	ストレス発散や活力をつけることができる
		Q2	普段とは違う環境でリフレッシュできる
	安心作用	Q3	トイレに行きやすい
		Q4	男性を気にしたファッションをしなくてもよい(胸元や足元に気をつける等)
		Q5	遠慮せず食べられる
		Q6	すっぴんを見せることができる
	女性同士特有特性	Q7	温泉を楽しむことができる
		Q8	一晩中喋ることができる
		Q9	普段より女性らしい気分を味わうことができる
		Q10	楽しくお酒が飲める
		Q11	美容やショッピングに時間を使える
対人関係特性	Q12	話が合う	
	Q13	誘いやすい	
	Q14	予定が合わせやすい	
	Q15	情報交換や刺激が得られる	
	Q16	友情が深まる	
外的状況要因	Q17	女性だけでも安全に旅行ができるようになった	
	Q18	女子旅を歓迎する施設が多くなった	
	Q19	女子旅プランが多くなり、旅行しやすくなった	
屋内志向	Q20	鉄道や飛行機、バスなどの乗り物が嫌い	
	Q21	旅行の計画や手続きの情報収集が面倒	
	Q22	外出自体が面倒	
女子旅苦手傾向	Q23	恋愛話や愚痴が多くだらないと思う	
	Q24	本音(悪口)に傷ついたりする	
	Q25	同調圧力に気疲れする	
	Q26	女子旅という名称や名前が嫌い	
構造的要因	余裕不足	Q28	お金の余裕がない
		Q32	学業が忙しい
		Q33	バイトが忙しい
	娯楽消費	Q29	将来のために貯金をしたい
		Q30	美容や趣味などの旅行以外のことにお金を使いたい
旅行意向	Q31	Q31	美容や趣味などの旅行以外のことに時間を使いたい
		Q34	旅行内容にお金をかけた女子旅に行きたい
	Q37	SNSに投稿したいから行きたい	

RMSEA = 0.058 であった。GFI, AGFI, および CFI は 0.9 以上が望ましいとされるが、基準を満たしていない。RMSEA も 0.05 以下であれば当てはまりがよいとされるが、基準を満たしていない。そのため、このモデルはデータとの当てはまりが悪いといえる。そこで、修正指数とパス係数(潜在変数や観測変数

係数は全て標準化解  
 全てのパスは5%で有意

青線：因子負荷量  
 赤線：偏回帰係数  
 緑線：エラー項  
 □：観測変数  
 ○：潜在変数  
 ⇄：相関関係  
 →：因果関係

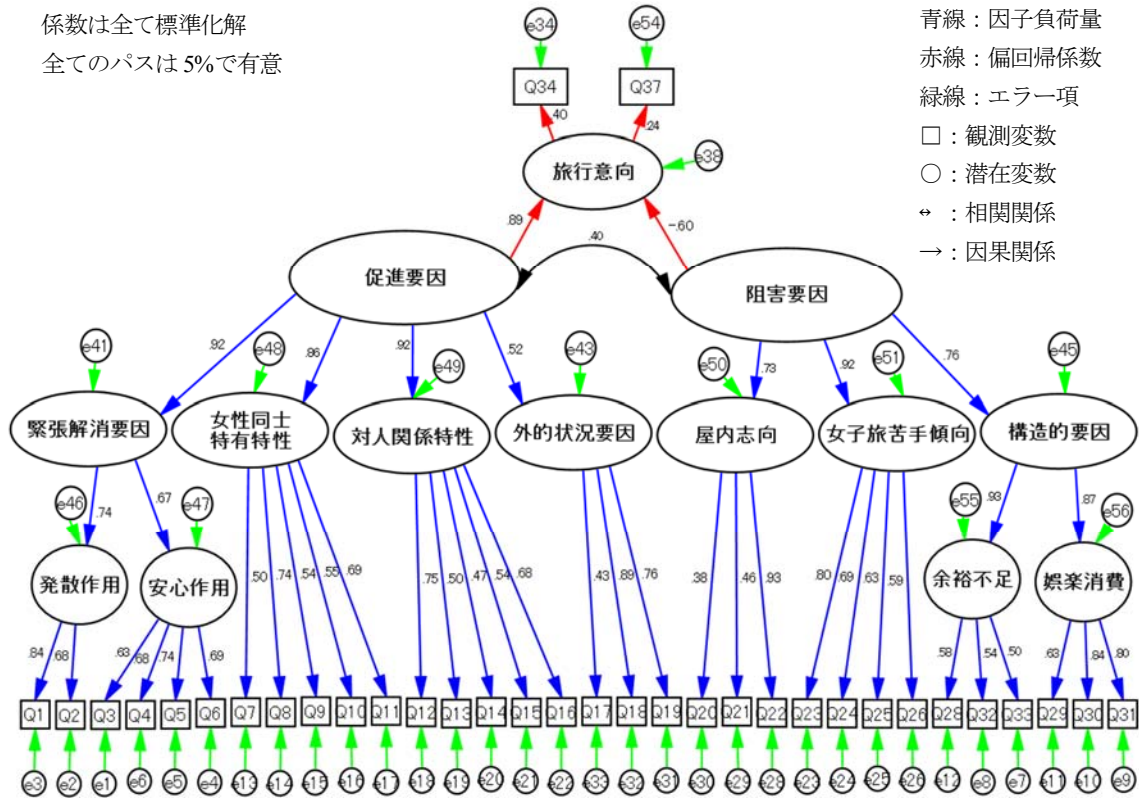


図3 共分散構造分析の最終モデル

への影響指標、因果関係の大きさ・強さ)の推定値をもとにモデルの修正を行った。修正の結果、共分散構造分析の最終モデル(図3)の適合度は、GFI = 0.878, AGFI = 0.856, CFI = 0.902, RMSEA = 0.046となり、モデルが複雑であることや観測変数が多いことを考慮すると、一定の適合度を示したといえる。

## 2) 考察

### <モデル全体の考察>

最終モデルが一定の適合度を示したことから、本研究により女子大学生の女子旅意向は促進要因と阻害要因により規定されることが明らかとなった。その中でも、既存研究では分析されていなかった促進要因の存在が、本研究により定量的に明らかとなった。また、促進要因と阻害要因は図3に示す潜在変数で構成されることも示された。阻害要因の女子旅苦手傾向は、既存研究<sup>4), 5), 6), 7), 9), 10)</sup>とは異なり本研究の着眼点である女子旅ならではの変数がモデルに構成されたといえる。

### <旅行意向へ直接影響を与える潜在変数の考察>

本研究のモデルでは、旅行意向には阻害要因(-0.60)より促進要因(0.89)の方が強いかつ正の影響があることが示された。要因間の差の有無について検定を行った結果、F値は5.167で1%有意となった。つまり、女子大学生は「女子旅に行きたい」と思える促進要因が増加する、または促進要因の内容が向上したり推進されたりすることにより、旅行意向がより大きくなると考えられる。一方、促進要

因より影響は小さいが、阻害要因に関しても大きな負の影響があるため解決が求められる。また、促進要因と阻害要因の相関係数は0.4であり、やや相関がある。

### <促進要因の下部の変数(因子分析)の考察>

促進要因に構成された4つの潜在変数が、影響を及ぼす観測変数により、促進要因に関する3つの要因が示された。まず、発散できる環境や遠慮せず食べることができるなどの安心感が保たれるような状況が必要ということである。次に、周囲を気にせず喋ることができる環境を現状のまま維持する必要があるということである。最後に、女子旅を歓迎する観光地や宿泊施設の更なる増加が必要ということである。これら3つの促進要因が向上するまたは推進されることが女子大学生の女子旅意向の向上に求められている。

### <阻害要因の下部の変数(因子分析)の考察>

阻害要因においても、観測変数より3つの要因が示された。まず、女子大学生が女子旅に行くこと自体が面倒であると感じているため、女子旅に行きたいと思ってもらうために女子旅の良さを強調することや、女子旅の欠点の解決が必要ということである。次に、女性同士が自然と話題にする恋愛話や愚痴を女子大学生同士が共感し合えるようにする必要があるのである。最後に、女子大学生の消費を旅行に向ける必要があるということである。これら3つの阻害要因の解決が女子大学生の女子旅意向の

向上に求められている。

＜旅行意向の観測変数とモデルの関連性（重回帰分析）の考察＞

2つの観測変数（Q34・Q37）のパス係数を比較すると、アンケート項目のQ34はQ37より説明力が高いことが示された。一方で、Q34よりQ37のパス係数が低いことから、このモデルに構成された観測変数（アンケート項目内容）では説明力が低く、本アンケートで調査しなかった要因の影響があり得る。

## 5. 結論

以上の分析より、女子旅に行く大学生を増加させ、持続可能な観光を実現するために現在の女子旅を改善する方法を4つ提案する。

- ① 催行人数の結果において、女子大学生は女子旅に自分を含めた3人以上で行く傾向があったことから、3人以上で参加すると特典のあるプランを増やす。
- ② 女子旅では喋ることが重要であることから、ホテル滞在可能時間を長くするプランや、外出せずに飲食物を購入できる宿泊施設を増やすことによって、女子大学生が外的状況を気にせず喋ることができる環境作りをする。
- ③ 旅行にお金を使いたいと思ってもらうために、大学生である時期に行く、女子旅をはじめとする旅行が、「今しかできない旅行」ということを伝えていく。旅行・観光消費動向調査<sup>13)</sup>によると、若年層の国内観光旅行満足度や再来訪意向は、参加者の減少とは反対に全年齢層で最も高い。このことから、旅行で得られる満足度は、旅行以外の余暇活動では代替できないものが多くあると考えられる。感受性豊かで、比較的時間的制約の少ない大学生である期間しかできないことを知らせていくことで、女子大学生の消費生活の中で旅行の優先順位をあげることができるだろう。
- ④ 女性同士の会話での不満については、女子大学生自身による改善が必要である。例えば、一緒にいるメンバーによって話す内容に分別をつける、一緒に共感し楽しむことのできるメンバーを選別して旅行に行く、などである。女子大学生が各々気遣いをすることによって、解決できる阻害要因であると考えられる。

本研究では、女子大学生の旅行意向を明らかにするために、女子大学生を対象として調査を行ったが、他の世代にも同様の調査をし、女子旅に対する意向を比較することにより、女子大学生の女子旅意向の特徴を明確にすることができるであろう。

また、現在SNSは女子大学生の日常生活における情報伝達ツールとして積極的に利用され、対人関係

を広げる役割を持っている<sup>14)</sup>。しかし、今回の調査では旅行意向を説明する促進要因と阻害要因にSNSに関する質問項目が少なかったため、旅行意向のSNSに関する観測変数間に相関が表れなかった可能性がある。そのため、質問項目を変更・追加して調査をする必要がある。

## 6. 参考文献

- 1) 国土交通省観光庁編：観光白書平成24年版，日経印刷（2012）
- 2) 読売新聞：女子旅の誘客本格化＜[http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tochigi/feature/utunomiya1348851061554\\_02/news/20121016-OYT8T00156.html](http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tochigi/feature/utunomiya1348851061554_02/news/20121016-OYT8T00156.html)＞，2012-10-16
- 3) 全日本空輸株式会社：2011年は「女子会」から「女子旅」へ！～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～＜<http://www.ana.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf>＞，2013-10-07
- 4) 日比野直彦・佐藤真理子：若者と旅—若年層の国内観光行動の時系列分析—，国際交通安全学会誌，37(2)，pp.142-150（2012）
- 5) 奥山忠裕・日比野直彦・森地茂：若年層の観光活動の減少要因に関する研究，運輸政策研究，13(3)，pp.75-84（2010）
- 6) 田中良典・井出明：テキストマイニングによる若者の観光需要の推定～大学生のライフスタイルに着目して～，情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ研究会報告，2011-CH-90(10)，pp.1-8（2011）
- 7) 金川由紀：大学生の旅行ばなれ現象に関する検証～国内旅行における温泉の魅力～，日本観光研究学会第25回全国大会論文集，pp.213-216（2010）
- 8) 総務省統計局：平成23年社会生活基本調査＜<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001039121&cycocode=0>＞，2013-10-07
- 9) 金春姫・鎌田裕美：若者の旅行に対する意識，成城大学経済研究，188，pp.177-191（2010）
- 10) 林幸史：観光行動の促進要因と阻害要因—JGSS-2010のデータを用いて—，日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集，11，pp.59-69（2012）
- 11) 株式会社マイクロミル：Yahoo!リサーチ，「女子会に関する調査」を実施＜<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000061.000000624.html>＞，2013-10-07
- 12) 公益財団法人日本交通公社：旅行者動向2010（2010）
- 13) 国土交通省観光庁：旅行・観光消費動向調査～国内旅行の満足度・再来訪意向をはじめととりまとめました～＜<http://www.mlit.go.jp/common/000233469.pdf>＞，2014-1-21
- 14) 尾上恵子：女子学生の人間関係構築における諸要因について，一宮女子短期大学紀要，46，pp.15-22（2007）

## 目 次

第一章	序論	1
1-1	背景・論点	1
1-2	目的・意義	3
1-3	論文の構成	3
	参考文献	3
第二章	研究方法	5
2-1	研究対象	5
2-2	仮説モデル	6
2-2-1	先行研究のレビュー	6
2-2-2	仮説モデルの構築	6
2-3	アンケート調査の概要	8
2-3-1	調査方法	8
2-3-2	調査項目	8
	参考文献	10
第三章	アンケート調査の結果	13
3-1	単純集計結果	13
3-2	単純集計結果の考察	16
	参考文献	17
第四章	共分散構造分析の結果と考察	19
4-1	共分散構造分析の結果	19
4-2	モデル修正に関する考察	21
4-3	最終モデルに基づいた女子大学生の女子旅に対する意識の考察	22
4-3-1	モデル全体	22
4-3-2	旅行意向へ直接影響を与える潜在変数	22
4-3-3	促進要因	23
4-3-4	阻害要因	23
4-3-5	旅行意向	23
	参考文献	23
第五章	結論と今後の課題	25
5-1	本論文のまとめ	25
5-2	結論	25
5-3	今後の課題	26
	参考文献	26

謝辞	.....	27
付録		29



## 図 表 目 次

図 1-1	日本人の国内における旅行消費額と国内観光旅行による 1 人当たりの宿泊数の推移	1
図 1-2	年齢階層別国内宿泊観光旅行ののべ回数	2
図 2-1	女子大学生の旅行に対する購買意図の仮説モデル	7
図 3-1	4 大学の学年別女子大学生人数と調査時の割合の比較	13
図 3-2	回答者の出身地 (問 3) の結果	14
図 3-3	女子旅経験の有無 (問 4) の結果	14
図 3-4	大学生になって実施した国内旅行の平均回数 (問 5) の結果	15
図 3-5	問 5 のうち女子旅回数 (問 6) の結果	15
図 3-6	問 6 において自分以外の催行者人数 (問 7) の結果	15
図 4-1	共分散構造分析の最終モデル	20
表 2-1	都道府県別 15～24 歳女性の旅行・行楽の行動者率	5
表 2-2	アンケート調査詳細	8
表 2-3	アンケート項目の問 1～7	8
表 2-4	アンケート項目の問 8	9
表 3-1	アンケート回収結果	14
表 3-2	問 8 の平均値と標準偏差	16
表 4-1	最終モデルでの潜在変数と観測変数	21



## 第一章 序論

### 1-1 背景・論点

日本では、2007年に施行された観光立国推進基本法に基づいて2012年に観光立国推進基本計画が閣議決定され、観光立国の実現に向けての取り組みが推進されている。この計画では、2016年までの基本的な目標として、国内旅行における旅行消費額30兆円（2010年は23.8兆円）、年間平均宿泊数2.5泊（2010年は2.12泊）が掲げられている。

現在、日本国内における旅行消費額と国内観光旅行による1人当たりの宿泊数は、ともに減少傾向にある<sup>1)</sup>（図1-1）。そのため、基本計画を導入し、具体的な目標を掲げることで、観光の立て直しを図ろうとしている。効率よく基本計画の目標を達成するためには、さまざまな旅行の種類の中でも、現在最も行動者数が伸びている種類の取り組みを強化することが有効であろう。

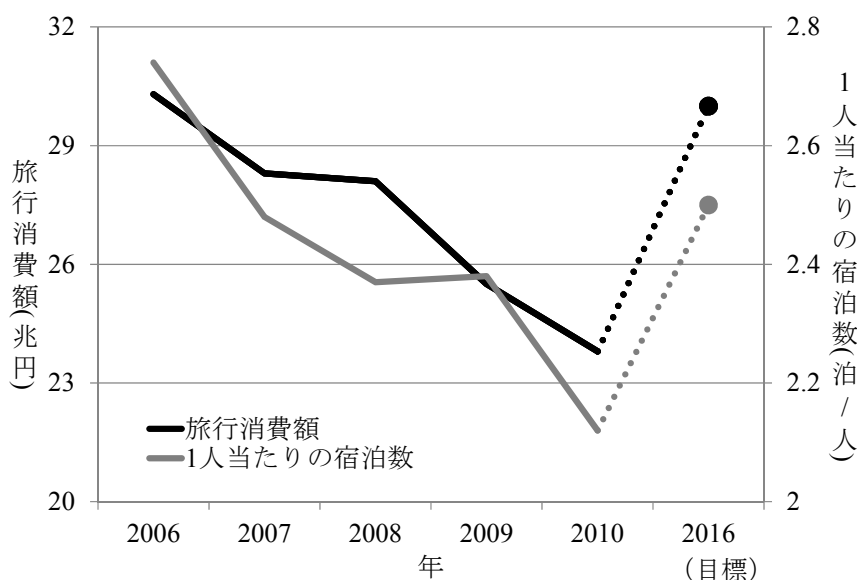


図1-1 日本人の国内における旅行消費額と国内観光旅行による1人当たりの宿泊数の推移<sup>1)</sup>

観光分野における流行は、女子旅である<sup>2), 3), 4)</sup>。女性は男性と比較して、宿泊施設や食事に対するこだわりが強く、女性同士の旅行で気に入れば、今度は恋人や家族連れで足を運ぶという可能性が高い<sup>2)</sup>。旅行業界は、この女性ならではの特性に注目し、女性をターゲットにした旅行商品の開発を進めている。その結果、現在多くの女性が女性だけで旅行に行くようになり、女子旅ブームを起し始めている<sup>2)</sup>。例えば、日光市で、女性限定ツアーを企画したところ80人募集のところ500人の応募があった<sup>2)</sup>。また、JTB西日本が販売を始めた女子旅パック（海外旅行）は約3ヶ月で4000人を超えるヒット商品となった<sup>4)</sup>。職場やサークルなど団体旅行が2007年から5年連続減少

し、また友人との旅行が2年連続減少している中<sup>5)</sup>、女子旅は旅行需要の高いものといえる。そこで、本研究では、女子旅に着目する。

一方、日比野・佐藤(2012)<sup>6)</sup>により、近年の国内宿泊観光需要の低下の要因は、若年層の旅行行動の低下であることが明らかとなっている。この研究では、国民の観光に関する動向調査の、国内宿泊観光旅行回数を年齢階層別に見ている。この調査によると、1990年代に最も国内宿泊観光旅行の回数が多かった20歳代が、近年では全年代で最低の水準まで低下していることが明らかとなった(図1-2)。さらに、国内宿泊観光需要の低下の要因は、参加率よりも参加者数の減少による影響が大きい。参加者数を年齢階層別推移で見ると、若年層が最も減少している。これは、若年層の人口減少を考慮して国内宿泊旅行参加率を見ても、減少傾向に変わりはない。この傾向は、今後の旅行業界において大きな問題とされている。奥山ら(2010)<sup>7)</sup>は、10歳代から20歳代は観光活動を活発に行うようになる年齢層で、この年代の観光活動の低下は、将来的により高い年齢層が観光を行わなくなる可能性があることを示している。観光活動を行わない若年層は、将来も観光活動を行わないという事態が懸念されている。これらの先行研究により、国内宿泊観光需要の低下の要因である若年層の旅行行動を強化することによって、効率よく基本計画の目標を達成できる上に、持続可能な観光へと寄与できると考える。

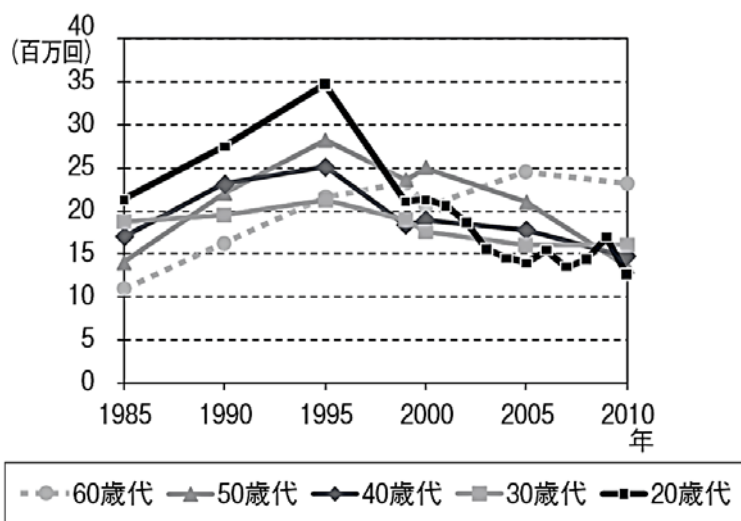


図1-2 年齢階層別国内宿泊観光旅行ののべ回数 (日比野・佐藤 (2012) <sup>6)</sup> より)

若年層の国内観光需要の減少に関しては、観光庁の若者旅行振興研究会が、若年層の旅行意識の分析<sup>8)</sup>を行い、若者を旅行に連れて行く方策<sup>9)</sup>を提案している。この分析では、若年層の旅行傾向を3点明らかにしている。1点目は価格訴求力が非常に強いものの旅行のテーマや訪問地のイメージも参加理由となっていること、2点目は3名以上のツアー参加者が多いこと、3点目は旅行のきっかけとして、家族、友人、知人

から情報収集するケースが多く、口コミによる宣伝が効果的であることである。

若年層の旅行に関する先行研究では、田中・井出(2011)<sup>10)</sup>が大学生を対象にテキストマイニングによる分析を行っている。この研究では男女別、文・理系別に各々が希望する旅行から観光ニーズを分析し、文系女子は友達と一緒にであることや安全性、理系女子は安さとコストパフォーマンスを旅行に求めていることを示している。日比野・佐藤(2012)<sup>6)</sup>と奥山ら(2010)<sup>7)</sup>では、若年層が旅行をしなくなった理由として時間的、経済的な余裕がないことはあくまで間接的な理由であり、なんとなく他にやりたいことがあるという生活様式の価値観が理由であるとしている。特に日比野・佐藤(2012)<sup>6)</sup>では、若年層の生活様式の価値観変化として、近距離化、クルマ離れを指摘している。金川(2010)<sup>11)</sup>では、温泉に特化した大学生の旅行離れに関する研究から、女子大学生の観光客を引き付けるには、料理がおいしいこと、源泉かけ流しであること、エステができることを前面に押し出すべきであると指摘している。以上より、先行研究において、若年層の旅行行動に関する研究は行われているが、新しい旅行分野となり得る女子旅を対象とした分析はない。

そこで本研究では、女子旅と大学生の双方を踏まえ、女子大学生が求める女子旅を対象とする。なお、本研究において、女子旅は2人以上の女性だけで行く宿泊の有無を問わない国内旅行と定義する。また、若年層として大学生を対象とする。

## 1-2 目的・意義

本研究の目的は、女子大学生による女子旅における旅行行動の実態を把握することにより、購買意図に関する要因間の関係をモデル化し、旅行行動を阻害および促進する要因を明らかにすることである。

本研究の意義は、女子大学生の観光行動の要因の強弱や要因同士のつながりを明らかにすることにより、女子大学生の旅行行動を促進し、観光立国推進基本計画の目標達成へとつなげることである。そして、女子大学生という若年層の旅行意向を明らかにすることで、持続可能な観光に寄与することである。

## 1-3 論文の構成

本論文の構成は以下の通りである。

第二章では、研究方法と研究対象の選定、仮説モデル、アンケート調査の概要について述べる。第三章では、アンケート調査の単純集計結果と考察を示す。第四章では、共分散構造分析の結果と考察を示す。そして第五章では、本研究の結論を示す。

### <参考文献>

- 1) 国土交通省観光庁編：観光白書平成24年版，日経印刷(2012)
- 2) 読売新聞：女子旅の誘客本格化<<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tochigi/feature/utun>

- omiya1348851061554\_02/news/20121016-OYT8T00156.html>, 2012-10-16
- 3) 全日本空輸株式会社：2011 年は「女子会」から「女子旅」へ！～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～<<http://www.ana.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf>>, 2013-10-07
  - 4) JTB 西日本広報室：2014 年度「ルック JTB」西日本発商品発表<[http://www.jtbcorp.jp/scripts\\_hd/image\\_view.asp?menu=news&id=00049&news\\_no=379](http://www.jtbcorp.jp/scripts_hd/image_view.asp?menu=news&id=00049&news_no=379)>, 2012-1-21
  - 5) じゃらんリサーチセンター：じゃらん宿泊旅行調査 2013, 株式会社リクルートライフスタイル (2013)
  - 6) 日比野直彦・佐藤真理子：若者と旅—若年層の国内観光行動の時系列分析—, 国際交通安全学会誌, 37(2), pp.142-150 (2012)
  - 7) 奥山忠裕・日比野直彦・森地茂：若年層の観光活動の減少要因に関する研究, 運輸政策研究, 13(3), pp.75-84 (2010)
  - 8) 国土交通省観光庁：若年層の旅行性向・意識に関する調査分析報告書 (2012)
  - 9) 国土交通省観光庁：若者を旅に連れて行く方策 (2012)
  - 10) 田中良典・井出明：テキストマイニングによる若者の観光需要の推定～大学生のライフスタイルに着目して～, 情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ研究会報告, 2011-CH-90(10), pp.1-8 (2011)
  - 11) 金川由紀：大学生の旅行ばなれ現象に関する検証～国内旅行における温泉の魅力～, 日本観光研究学会第 25 回全国大会論文集, pp.213-216 (2010)

## 第二章 研究方法

本研究では、第一章で述べた目的を達成するために、共分散構造分析を用いる。そのために、まず文献調査により仮説モデルを構築する。そして、仮説モデルを検証するために必要なデータを、アンケート調査によって取得する。アンケート調査で得られたデータを用いて、仮説モデルによって構築された構成概念間の関係を、共分散構造分析により検証する。共分散構造分析は、構造方程式モデルとも言われ、直接観測できない潜在変数を導入し、潜在変数と観測変数との間の因果関係を同定することにより、社会現象や自然現象を理解するための統計的アプローチである<sup>1)</sup>。本研究では、直接観測できない潜在的な女子大学生の旅行行動要因を、観測可能な女子旅に関する質問項目の回答に基づき明らかにする。

### 2-1 研究対象

本研究では、若者の旅行・行楽行動者率の高い都道府県を対象地として、女子旅に対する女子大学生の行動要因を抽出する。そのため、平成 23 年社会生活基本調査<sup>2)</sup>より、都道府県別 15～24 歳女性の旅行・行楽の種類別行動者率が最も高い滋賀県を対象地とする(表 2-1)。そして、滋賀県に所在する 4 年制大学に通う女子大学生を分析対象者とする。各大学へアンケート調査の許可をとったところ、許可を得られたのは 8 大学(立命館大学びわこ・くさつキャンパス(以下、立命館大学)、龍谷大学瀬田キャンパス(以下、龍谷大学)、滋賀県立大学、成安造形大学、滋賀医科大学、聖泉大学、長浜バイオ大学、びわこ学院大学)であった。

表 2-1 都道府県別 15～24 歳女性の旅行・行楽の行動者率<sup>2)</sup>

都道府県	行動者率(%)	都道府県	行動者率(%)	都道府県	行動者率(%)
北海道	82.0	石川県	80.1	岡山県	72.7
青森県	60.8	福井県	81.9	広島県	80.8
岩手県	71.7	山梨県	75.8	山口県	75.6
宮城県	83.7	長野県	76.8	徳島県	82.3
秋田県	74.1	岐阜県	83.3	香川県	83.0
山形県	76.0	静岡県	74.0	愛媛県	82.1
福島県	78.3	愛知県	83.9	高知県	65.7
茨城県	73.7	三重県	86.2	福岡県	79.1
栃木県	76.3	<b>滋賀県</b>	<b>86.4</b>	佐賀県	71.1
群馬県	80.8	京都府	82.2	長崎県	67.2
埼玉県	83.7	大阪府	80.0	熊本県	76.1
千葉県	84.0	兵庫県	77.6	大分県	74.3
東京都	82.0	奈良県	84.5	宮崎県	73.5
神奈川県	81.3	和歌山県	73.4	鹿児島県	77.4
新潟県	71.2	鳥取県	75.6	沖縄県	52.0
富山県	79.5	島根県	70.2		

## 2-2 仮説モデル

### 2-2-1 先行研究のレビュー

金・鎌田 (2010)<sup>3)</sup>では、若者の旅行に対する購買意図形成モデルが検証されている。仮説モデルの変数で阻害要因を扱うことにより、若者が旅行に参加しようとするのに対してプラスまたはマイナスに働く要因、要因間の関係を明らかにすることを目的としている。この研究より、「趣味や友人と近場で過ごすこと」に勝る魅力を、メディアによりアピールすることが有効であると示されている。

林 (2012)<sup>4)</sup>では、日本人の観光行動の実態を把握することによって、観光行動を促進あるいは阻害する要因を明らかにすることを目的とし、JGSS-2010 のデータ<sup>注1)</sup>を用いて、自己組織化マップによる分析を行っている。林 (2012)<sup>4)</sup>は、まず既存研究・調査から促進要因と阻害要因を抽出している。抽出された促進要因は、次の3つの既存研究<sup>5), 6), 7)</sup>から挙げられたものである。1つ目に、前田 (1995)<sup>5)</sup>より観光行動の成立条件として時間、金銭、情報を挙げている。2つ目に、Pearce (1988)<sup>6)</sup>より観光動機の5段階モデルであるリラックス欲求、安全・刺激欲求、関係欲求、自己発展欲求、自己実現欲求を挙げている。3つ目に、佐々木 (2000)<sup>7)</sup>より観光動機を5次元の特性に集約し、緊張解消、娯楽追求、関係強化、知識増進、自己拡大を挙げている。

一方、阻害要因に関しては、Crawford ら (1987・1991)<sup>8), 9)</sup>により個人内、対人的、構造的という3つの要因を抽出している。また、近年の研究では、日本人の観光行動は主に構造的要因と対人的要因によって阻害されているという報告もある<sup>10), 11), 12), 13)</sup>。

### 2-2-2 仮説モデルの構築

金・鎌田 (2010)<sup>3)</sup>では、若者の旅行意向について阻害要因のみを扱っていたが、旅行意向を明らかにするためには阻害要因だけでなく、促進要因と阻害要因の相関や双方からの影響を分析することが必要である。そこで、金・鎌田 (2010)<sup>3)</sup>のモデルの構造と林 (2012)<sup>4)</sup>、前田 (1995)<sup>5)</sup>、Pearce(1988)<sup>6)</sup>、佐々木 (2000)<sup>7)</sup>および Crawford(1987・1991)<sup>8), 9)</sup>で明らかとなった促進要因と阻害要因に基づき、本研究では図 2-1 の仮説モデルを構築した。

下記のように、旅行意向は国内の女子旅への、促進要因と阻害要因から影響を受ける。促進要因と阻害要因の間には、相関関係があると仮定する。

促進要因は、旅行意向にプラスに働く要因であり、「緊張解消要因」、「娯楽追及要因」、および「外的状況要因」の3変数からなる。

・緊張解消要因：女子旅という日常の生活と異なる空間に身を置くことにより緊張が解消されることを示す。緊張解消要因は、「発散作用」と「安心作用」からなる。

－発散作用：日々の生活により蓄積されたストレスや疲れを女子旅によって体の内側からも外側からも解消できることを示す。



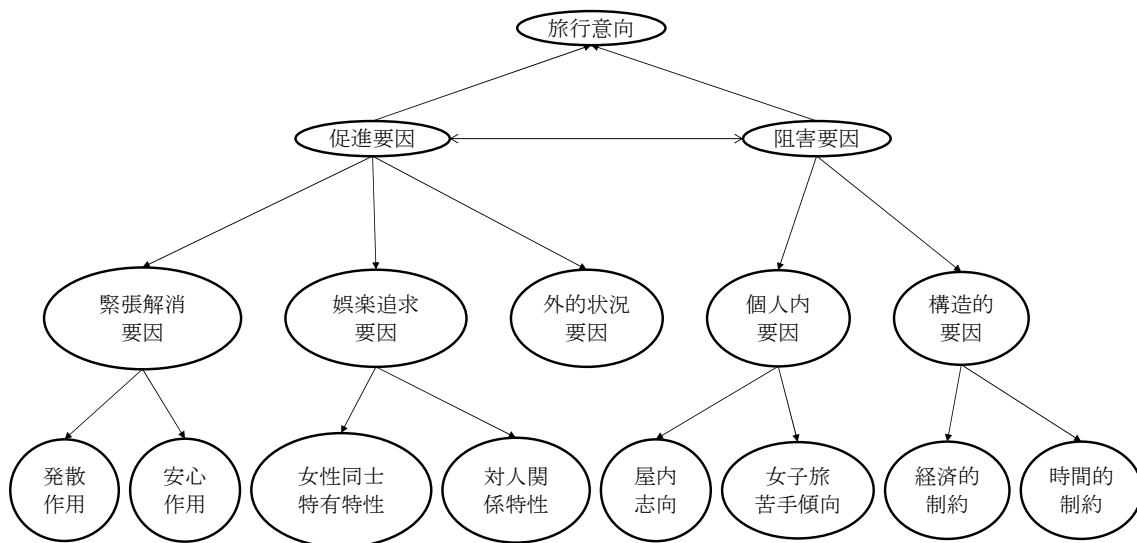


図 2-1 女子大学生の旅行に対する購買意図の仮説モデル

- ー安心作用：女性しかいない旅行であるから，男性が混在している旅行の時より，気を遣わずに済むことを示す。
  - ・娯楽追求要因：女子旅において，女性だけしかいないから楽しいまたは実施しやすいと感じることを示す。娯楽追求要因は，「女性同士特有特性」と「対人関係特性」からなる。
    - ー女性同士特有特性：女性同士だからこそ楽しく感じる，女性同士の方がより楽しくなることを示す。
    - ー対人関係特性：他の旅行とは異なり，女子旅の特徴的な同行者との関係から生じる利点を示す。
  - ・外的状況要因：女子旅に関する社会的状況の変化を示す。
- 一方，阻害要因は，旅行に行きたいと思うことにマイナスに働く要因のことで，「個人内要因」と「構造的要因」の2変数に分類する。
- ・個人内要因：女子旅の内容に関して個人内部に生じる，マイナス方向への心理傾向を示す。個人内要因は，「屋内志向」と「女子旅苦手傾向」からなる。
    - ー屋内志向：旅行に関して思いはあってもなかなか行動することができない，動こうと思えるほど旅行が重要でないという心理を示す。
    - ー女子旅苦手傾向：女性ならではの雰囲気欠点ともなり得る行動を示す。
  - ・構造的要因：個人内要因以外の外的に生じる要因のことである。構造的要因は，「経済的制約」と「時間的制約」からなる。
    - ー経済的制約：金銭面で旅行への弊害となっていることを示す。

－時間的制約：時間面に関して旅行への弊害となっていることを示す。

## 2-3 アンケート調査の概要

### 2-3-1 調査方法

まず、調査対象である 8 大学に通う女子大学生の人数比からアンケート配布枚数を決定した。共分散構造分析では、一般的に 200 サンプル必要である。本研究では、有効回答枚数を考慮し、合計配布枚数が 400 枚となるように配布予定枚数を設定した(表 2-2)。

調査方法は、メールや電話で許可を得られた調査対象大学において、指定された調査場所を通った女子大学生にアンケート票を配布し、その場で記入してもらい直接回収した。調査期間は、2013 年 10 月 26 日から 11 月 11 日である(表 2-2)。

表 2-2 アンケート調査詳細

	女子学生 (人)	配布予定枚数 (枚)	調査日時
立命館大学 <sup>14)</sup>	3669	154	2013 年 11 月 11 日 13 時～16 時 30 分
龍谷大学 <sup>15)</sup>	2787	117	2013 年 11 月 7 日 10 時～17 時
滋賀県立大学 <sup>16)</sup>	1211	51	2013 年 10 月 25 日～11 月 8 日
成安造形大学 <sup>17)</sup>	602	25	2013 年 10 月 30 日 11 時 30 分～13 時
滋賀医科大学 <sup>18)</sup>	488	20	2013 年 10 月 26 日 13 時～15 時
聖泉大学 <sup>19)</sup>	324	14	2013 年 11 月 5 日 11 時～12 時 30 分
長浜バイオ大学 <sup>20)</sup>	296	12	2013 年 11 月 1 日 11 時～13 時
びわこ学院大学 <sup>21)</sup>	157	7	2013 年 11 月 5 日～15 日

表 2-3 アンケート項目の問 1～7

番号	質問項目
問 1	学年
問 2	所属学部
問 3	出身地
問 4	女子旅経験の有無
問 5	大学生になって平均 1 年間で行った国内旅行の回数
問 6	問 5 のうち国内の女子旅の回数
問 7	問 6 で 1 回以上の場合、国内の女子旅に行った時の催行人数

### 2-3-2 調査項目

アンケートの調査項目は、表 2-3・2-4 に示す通りである。アンケート票は、付録 A に示す。

本アンケートにおいて、問 8 は共分散構造分析で使用するデータとなる女子旅についての考えに関する設問である。女子旅に関する既存の調査が存在しないため、女子会に関する調査<sup>22), 23), 24)</sup>に基づき質問項目を設計した。表 2-4 では仮説モデルの変数と質問項目である観測変数を合わせて示している。

問 8 では、女子旅経験の有無に関係なく、単に女子旅に対する考えを尋ねている。

回答方法は、「まったくそうではない」、「どちらかといえばそうではない」、「どちらでもない」、「どちらかといえばそうである」、「まったくそのとおりである」の5段階評価である。

表 2-4 アンケート項目の間 8 (潜在変数はすべて仮説モデルに対するもの)

潜在変数		番号	観測変数 (質問項目)
促進要因	緊張解消要因	発散作用	Q1 ストレス発散や活力をつけることができる
			Q2 普段とは違う環境でリフレッシュできる
		安心作用	Q3 トイレに行きやすい
			Q4 男性を気にしたファッションをしなくてもよい (胸元や足元に気をつける等)
			Q5 遠慮せず食べられる
			Q6 すっぴんを見せることができる
	娯楽追求要因	女性同士特有特性	Q7 温泉を楽しむことができる
			Q8 一晩中喋ることができる
			Q9 普段より女性らしい気分を味わうことができる
			Q10 楽しくお酒が飲める
		対人関係特性	Q11 美容やショッピングに時間を使える
			Q12 話が合う
			Q13 誘いやすい
			Q14 予定が合わせやすい
			Q15 情報交換や刺激が得られる
			Q16 友情が深まる
	外的状況要因	Q17 女性だけでも安全に旅行ができるようになった	
		Q18 女子旅を歓迎する施設が多くなった	
		Q19 女子旅プランが多くなり、旅行しやすくなった	
阻害要因	個人内要因	屋内志向	Q20 鉄道や飛行機、バスなどの乗り物が嫌い
			Q21 旅行の計画や手続きの情報収集が面倒
			Q22 外出自体が面倒
		女子旅苦手傾向	Q23 恋愛話や愚痴が多くだらないと思う
			Q24 本音(悪口)に傷ついたりする
			Q25 同調圧力に気疲れする
	構造的要因	経済的制約	Q26 女子旅という名称や名前が嫌い
			Q27 女子が集まると必ずやる、写真を撮り SNS に載せる等といった行為が苦手
			Q28 お金の余裕がない
		時間的制約	Q29 将来のために貯金をしたい
			Q30 美容や趣味などの旅行以外のことにお金を使いたい
			Q31 美容や趣味などの旅行以外のことに時間を使いたい
			Q32 学業が忙しい
旅行意向		Q33 バイトが忙しい	
		Q34 旅行内容にお金をかけた女子旅に行きたい	
		Q35 なるべく安く行きたい	
		Q36 SNSなどで友達が行っていたところに行きたい	
		Q37 SNS に投稿したいから行きたい	

[注]

注 1) 文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点である、大阪商業大学

JGSS 研究センターによって行われた、第 8 回生活と意識についての国際比較調査のことである。調査は、全国の 20 歳～89 歳の男女 9000 名を層化二段無作為抽出によって選定して実施された。A 票（4500 名）と B 票（4500 名）に分かれている。

<参考文献>

- 1) 狩野裕・三浦麻子：AMOS, EQS, CALIS によるグラフィカル多変量解析，現代数学社 (2002)
- 2) 総務省統計局：平成 23 年社会生活基本調査<<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001039121&cycode=0>>，2013-10-07
- 3) 金春姫・鎌田裕美：若者の旅行に対する意識，成城大學經濟研究，188，pp.177-191 (2010)
- 4) 林幸史：観光行動の促進要因と阻害要因—JGSS-2010 のデータを用いて—，日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集，11，pp.59-69 (2012)
- 5) 前田勇：観光とサービスの心理学—観光行動学序説，学文社 (1995)
- 6) P.Philip: *The Ulysses Factor Evaluating Visitors in Tourist Settings*, Springer-Verlag (1988)
- 7) 佐々木土師二：旅行者行動の心理学，関西大学出版部 (2000)
- 8) D.Crawford, G.Godbey: Reconceptualizing barriers to family leisure, *Leisure Sciences*, 9(2), pp.119-127 (1987)
- 9) D.Crawford, E.Jackson, G.Godbey: A hierarchical model of leisure constraints, *Leisure Sciences*, 13(4), pp.309-320 (1991)
- 10) JTB 広報室：JTB，初めての「団塊世代国内海外旅行動向」を発表！！—「退職記念旅行」と「60 歳以降の旅行」について調査— (2007)
- 11) JTB 広報室：20 代若者の旅行動向調査 (2008)
- 12) JTB 広報室：20 代独身男女過去 3 年間の旅行経験に基づくアンケート調査 (2009)
- 13) 国土交通省観光庁：日本人の観光旅行の状況に関する調査・分析等報告書 (2009)
- 14) 立命館大学：学生・学生数 (2013 年 5 月 1 日現在) <[http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04\\_11\\_2-6.pdf](http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04_11_2-6.pdf)>，2013-10-08
- 15) 龍谷大学：学生数・入学定員・入学者数・収容定員等 (2013 年 5 月 1 日現在) <<https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html>>，2013-10-09
- 16) 滋賀県立大学：基本情報学生数 (2013 年 5 月 1 日現在) <<http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/gakuseisu.html>>，2013-10-09
- 17) 成安造形大学：平成 25 年度収容定員・学生数・収容定員充足率 (平成 25 年 5 月 1 日現在) <[http://www.seian.ac.jp/wp-content/uploads/2013/09/25-6\\_収容定員・学生数.pdf](http://www.seian.ac.jp/wp-content/uploads/2013/09/25-6_収容定員・学生数.pdf)>，2013-10-08
- 18) 滋賀医科大学：学生数等 医学部学生定員・現員<<http://www.shiga-med.ac.jp/intro/>

daigaiyo/PDF\_2013/18-22.pdf>, 2013-10-09

- 19) 聖泉大学：入学者，収容定員，在学者，留年生，社会人学生数，収容定員充足率（平成25年5月1日現在）<[http://www.seisen.ac.jp/intro/Capacity\\_Enrollment.pdf](http://www.seisen.ac.jp/intro/Capacity_Enrollment.pdf)>, 2013-10-08
- 20) 長浜バイオ大学：在籍者数，収容定員 2013 年（平成 25 年）5 月 1 日現在<<http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/pdf/13discloser/d2-0re.pdf>>, 2013-10-08
- 21) びわこ学院大学：収容定員・入学者数推移・収容定員充足率 2013 年 5 月 1 日現在<<http://www.newton.ac.jp/bgu/pdf/koukai/jyusokuritsu.pdf>>, 2013-10-08
- 22) ヒトサラ：潜入！女子会リアル調査<<http://hitosara.com/scene/jyoshikai/enquete.html>>, 2013-10-07
- 23) 全日本空輸株式会社：2011 年は「女子会」から「女子旅」へ！～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～<<http://www.ana.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf>>, 2013-10-07
- 24) 株式会社マイクロミル：Yahoo!リサーチ，「女子会に関する調査」を実施<<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000061.000000624.html>>, 2013-10-07



### 第三章 アンケート調査の結果

本章では、第二章で構築したアンケート調査の単純集計結果と考察を示す。

#### 3-1 単純集計結果

アンケートの回収結果は表 3-1 に示す通りである。図 3-1 に大学ごとの学年別女子大学生人数の実際と調査時の学年別人数を示す（学年別女子大学生人数のデータが取得可能であった 4 大学のみを掲載）。本研究で調査できた女子大学生の人数と実際の女子大学生の学年別割合には、大きな差異があった大学もあった。有効回答率は 89.4% であった。また、問 3～7 の集計結果を図 3-2～3-6 に示す。回答者の出身地は、滋賀出身者の割合が最も高い結果となったが、全体の 3 分の 1 弱であった（図 3-2）。女子旅経験の有無については、女子旅経験のある女子大学生が経験のない女子学生 of 4 倍程度であった（図 3-3）。大学生になってからの平均国内旅行回数は、1～2 回の割合が最も多く、その次に 5 回以上の割合が多く、両極端な結果となった（図 3-4）。そして、その国内旅行のうち女子旅回数は、1～2 回と回答した人が最も多かった（図 3-5）。女子旅に行く場合、自分以外の催行者人数は、3 人と回答した人が最も多かったが、4 つの選択肢の回答人数に大差はない（図 3-6）。

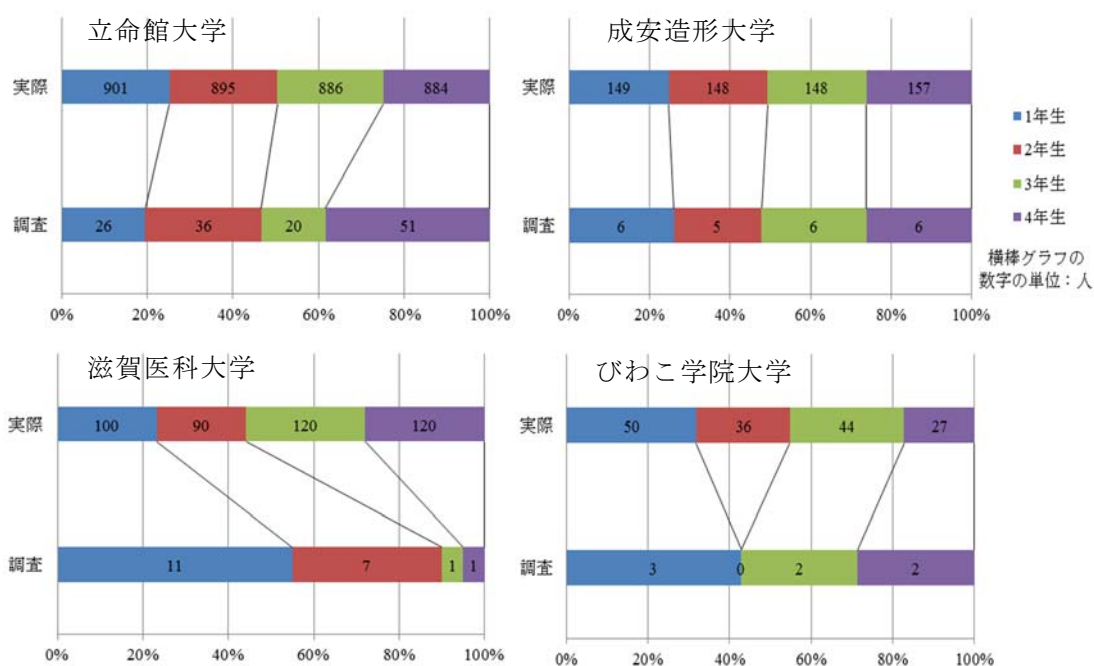


図 3-1 4 大学の学年別女子大学生人数<sup>6), 7), 8), 9)</sup>と調査時の割合の比較

表 3-1 アンケート回収結果

	配布予定 枚数 (枚)	回収枚数 (枚)	有効回答枚数 (枚)				
			計	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
立命館大学	154	155	133	26	36	20	51
龍谷大学	117	125	114	28	22	25	39
滋賀県立大学	51	71	66	18	20	10	18
成安造形大学	25	25	23	6	5	6	6
滋賀医科大学	20	22	20	11	7	1	1
聖泉大学	14	19	17	4	6	2	5
長浜バイオ大学	12	12	10	3	3	2	2
びわこ学院大学	7	7	7	3	0	2	2
計	400	436	390	99	99	68	124

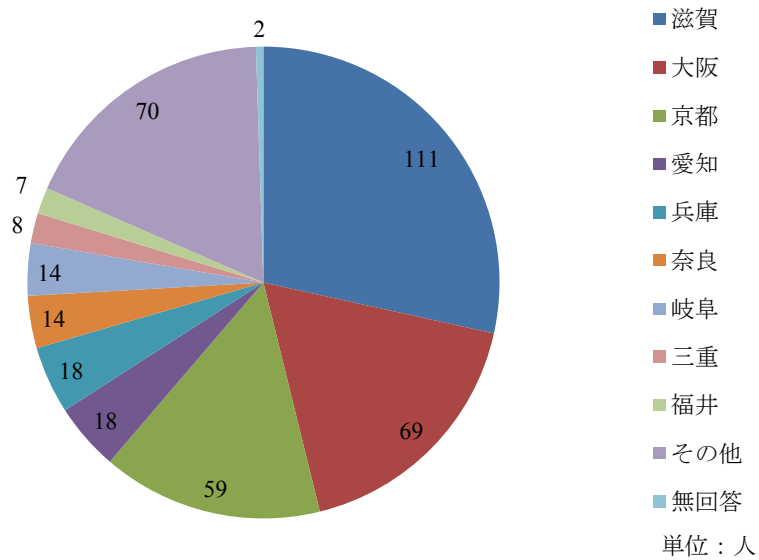


図 3-2 回答者の出身地 (問 3) の結果 (n=390)

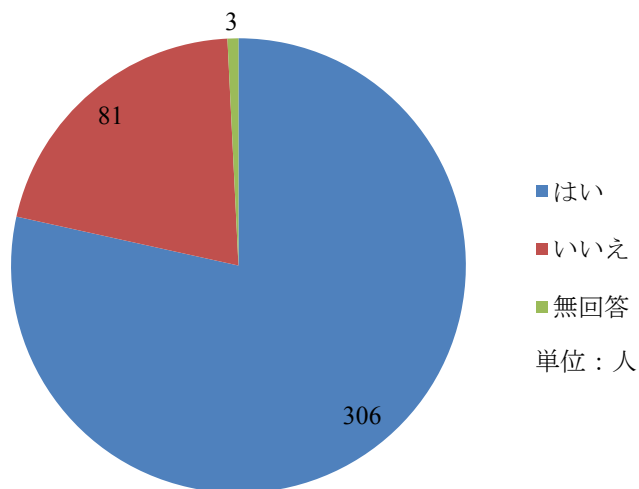


図 3-3 女子旅経験の有無 (問 4) の結果 (n=390)



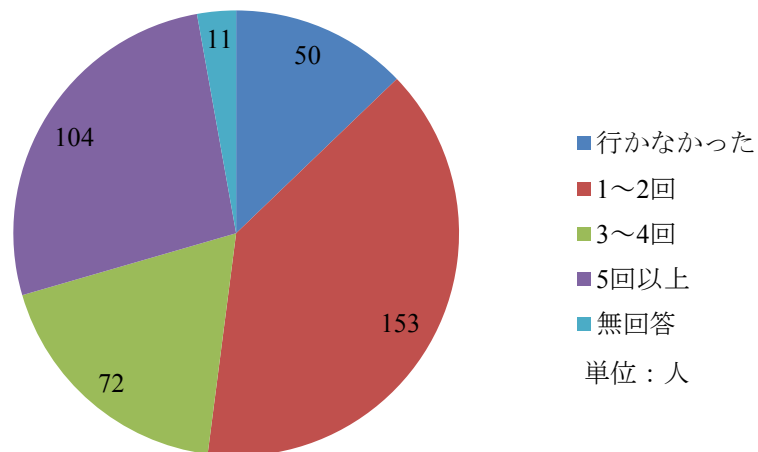


図 3-4 大学生になって実施した国内旅行の平均回数（問 5）の結果（n=390）

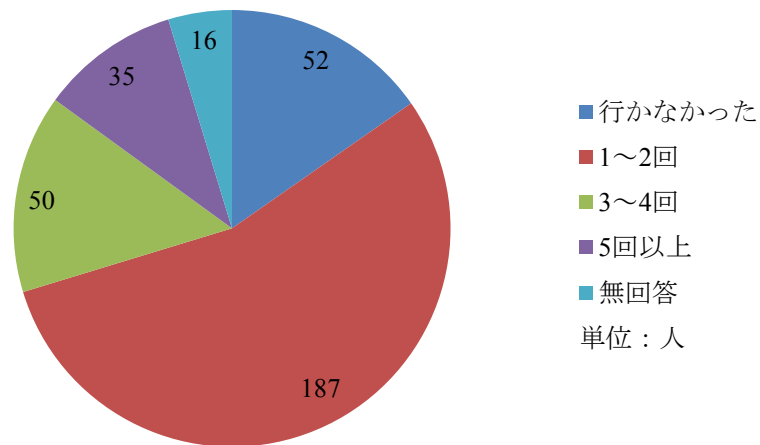


図 3-5 問 5 のうち女子旅回数（問 6）の結果（n=340）

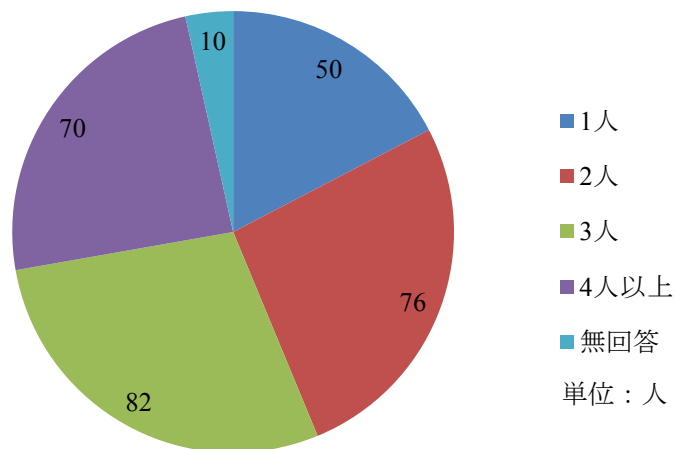


図 3-6 問 6 において自分以外の催行者人数（問 7）の結果（n=288）

問 8 の平均値と標準偏差は表 3-2 に示し、単純集計結果は付録 B に示す。また、相関行列表と無相関の検定結果は、付録 C の表 C-1 と表 C-2 にそれぞれ示す。標準偏差と平均値を見ると、6 項目（Q7・Q8・Q12・Q16・Q22・Q23）で天井効果あるいは床効果が確認できた。しかし、これらの項目は女子大学生の旅行に対する特性を分析するために必要な指標であるため、共分散構造分析に用いる。

表 3-2 問 8 の平均値と標準偏差

アンケート項目	平均値	標準偏差	アンケート項目	平均値	標準偏差
Q1	4.06	0.80	Q20	2.35	1.26
Q2	4.22	0.78	Q21	3.05	1.25
Q3	3.74	1.09	Q22	2.11	1.17
Q4	3.11	1.13	Q23	1.96	1.01
Q5	3.49	1.20	Q24	2.22	1.07
Q6	3.41	1.18	Q25	2.51	1.19
Q7	4.12	1.02	Q26	2.15	1.13
Q8	4.17	0.98	Q27	2.51	1.23
Q9	3.69	1.00	Q28	3.16	1.10
Q10	3.54	1.09	Q29	2.87	1.08
Q11	3.89	0.99	Q30	2.85	1.03
Q12	4.24	0.79	Q31	2.70	1.02
Q13	3.81	0.95	Q32	2.78	1.14
Q14	3.21	1.08	Q33	2.55	1.16
Q15	3.82	0.95	Q34	3.91	0.98
Q16	4.27	0.76	Q35	3.57	0.98
Q17	3.77	0.91	Q36	3.06	1.16
Q18	4.06	0.83	Q37	2.17	1.08
Q19	4.10	0.81			

### 3-2 単純集計結果の考察

問 4 の結果より、滋賀県の大学に通学している女子大学生の女子旅経験者は、78% であることが明らかとなった。全日本空輸株式会社が 20～39 歳の有職者女性 500 名に対して行った、女子旅に関する調査<sup>1)</sup>では、84%の女性が女子旅を経験したことがあると回答している<sup>注1)</sup>。女子旅は、30代の女性をターゲットとして始まったため<sup>2)</sup>、有職者の方が女子旅経験者の割合が高かったと考えられる。しかし、女子大学生は有職者より自由な時間が多いため、女子旅の在り方によっては、女子旅参加を促進させられる可能性がある。

次に、問 5 の結果より、女子大学生は大学生になって、年 1～2 回国内旅行に行く人が最も多く、その次に 5 回以上行く人が多いことが明らかとなった。2011 年の国民 1 人あたり国内宿泊観光旅行回数は平均 1.37 回である<sup>3)</sup>ことから、調査対象の女子大学生は国民の平均より多く国内旅行に行っているといえる。

問 6 の結果より、女子大学生は女子旅に年 1～2 回行く人が圧倒的に多いことが明らかとなった。旺文社が 20 代、30 代、40 代の女性 100 人ずつに行った女子旅調査<sup>4)</sup>によると、1 年間に行く女子旅回数は 2～3 回が 43.7%と最も多く、次に 4～5 回が 24.7%である<sup>注1)</sup>。この調査と比較すると、女子大学生の女子旅頻度は少ないことが分かる。

問 7 の結果より、女子大学生は、自分を含めた 3 人以上で女子旅に行くことが多いことが明らかとなった。未婚女性が友人と行く旅行の同行人数で最も多いのが、2 人で 42.8%，次に 6 人以上で 21.3%である<sup>5)</sup>。この結果と今回の調査結果を比較すると、女子大学生では一般的な未婚女性と比較して大人数で行く女子旅が多い傾向にあると言える。

#### [注]

注 1) この調査では女子旅の定義が記載されていないため、本研究と単純比較はできない。

#### <参考文献>

- 1) 全日本空輸株式会社：2011 年は「女子会」から「女子旅」へ！～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～<<http://www.ana.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf>>，2013-10-07
- 2) 牛窪恵：女性に流行るもの 汗水系+共感型エクササイズや女子会の発展系，女子旅が拡大(特集総予測 2012:世界不況は回避できるか?)，週刊ダイヤモンド，99(51)，p.188 (2011)
- 3) 国土交通省観光庁編：観光白書平成 24 年版，日経印刷 (2012)
- 4) 株式会社旺文社：『ことりっぷ』が女子旅調査を開始<<http://www.mapple.co.jp/mapple/news/2013/10/3517.html>>，2013-10-31
- 5) 公益財団法人日本交通公社：旅行者動向 2010 (2010)
- 6) 立命館大学：学生・学生数 (2013 年 5 月 1 日現在) <[http://www.ritsumeji.jp/public-info/pdf/public04\\_11\\_2-6.pdf](http://www.ritsumeji.jp/public-info/pdf/public04_11_2-6.pdf)>，2013-10-08
- 7) 成安造形大学：平成 25 年度収容定員・学生数・収容定員充足率 (平成 25 年 5 月 1 日現在) <[http://www.seian.ac.jp/wp-content/uploads/2013/09/25-6\\_収容定員・学生数.pdf](http://www.seian.ac.jp/wp-content/uploads/2013/09/25-6_収容定員・学生数.pdf)>，2013-10-08
- 8) 滋賀医科大学：学生数等 医学部学生定員・現員<[http://www.shiga-med.ac.jp/intro/daiyaiyo/PDF\\_2013/18-22.pdf](http://www.shiga-med.ac.jp/intro/daiyaiyo/PDF_2013/18-22.pdf)>，2013-10-09
- 9) びわこ学院大学：収容定員・入学者数推移・収容定員充足率 2013 年 5 月 1 日現在 <<http://www.newton.ac.jp/bgu/pdf/koukai/jyusokuritsu.pdf>>，2013-10-08



#### 第四章 共分散構造分析の結果と考察

本章では、まず第二章で構築した仮説モデルに対して行った共分散構造分析の結果を示す。共分散構造分析では、IBM SPSS Amos 22.0を使用した。次に、結果から各要因が旅行意向へどのように影響しているか考察する。

##### 4-1 共分散構造分析の結果

仮説モデルに対し共分散構造分析を行った。モデルでは識別性確保のため、図 4-1 に示す潜在変数から潜在変数または観測変数へのパスにおいて、すべて一番左側のパス（例えば、発散作用から観測変数 Q1・Q2 へのパスであれば、発散作用→Q1 のパス）にパス係数 1 を固定する制約を課し、最尤法により解を求めた。

モデルの適合度は、4つの指標（GFI, AGFI, CFI, RMSEA）を用いて判断する。仮説モデルに対する分析の結果、GFI = 0.829, AGFI = 0.805, CFI = 0.819, RMSEA = 0.058 であった。GFI, AGFI, および CFI は 0.9 以上が望ましいとされるが、基準を満たしていない。RMSEA も 0.05 以下であれば当てはまりがよいとされるが、基準を満たしていない。そのため、このモデルはデータとの当てはまりが悪いといえる。そこで、パスの修正を示す修正指数とパス係数（潜在変数や観測変数への影響指標、因果関係の大きさ・強さ）の推定値をもとにモデルの修正を行った。

仮説モデルに対して行った修正は以下の 6 点である。

- ① 旅行意向から Q35 へのパスは統計的に有意とならなかったため、Q35 を分析から外した。
- ② ①と同様に、Q36 も分析から外した。
- ③ 促進要因から娯楽追及要因へのパスが有意にならなかったため、娯楽追及要因を分析から外し、促進要因と女性同士特有特性、対人関係特性のパスを設定した。
- ④ 阻害要因から個人内要因へのパスが不適解となったため、個人内要因を分析から外し、阻害要因と屋内志向、女子旅苦手傾向のパスを設定した。
- ⑤ 構造的要因に影響を受ける変数の分類の組み換えを行った。Q28・Q29・Q30 と Q31・Q32・Q33 で分類していたものを、6つの観測変数の誤差項間共分散の修正指数により、Q28・32・33 と Q29・30・31 に分類をした。質問項目の内容に基づき、前者の変数名を「余裕不足」、後者の変数名を「娯楽消費」とする。
- ⑥ 女子旅苦手傾向から Q27 へのパスが不適解であったため、Q27 を分析から外した。

上記の修正の結果を図 4-1、最終モデルでの潜在変数と観測変数の関係を表 4-1 に示す。図中の矢印に付置された数値（因果関係の場合は標準化偏回帰係数、共分散の場合は相関係数）は、標準化推定値（-1~1 の値をとる）であり、絶対値が大きいほど変数間の関係性が強いことを示す。パスは 5%水準で有意な値のものを示している。

最終モデルの適合度は、GFI = 0.878, AGFI = 0.856, CFI = 0.902, RMSEA = 0.046 と

GFI=0.878, AGFI=0.856, CFI=0.902, RMSEA=0.046

係数は全て標準化解

全てのパスは 5% で有意

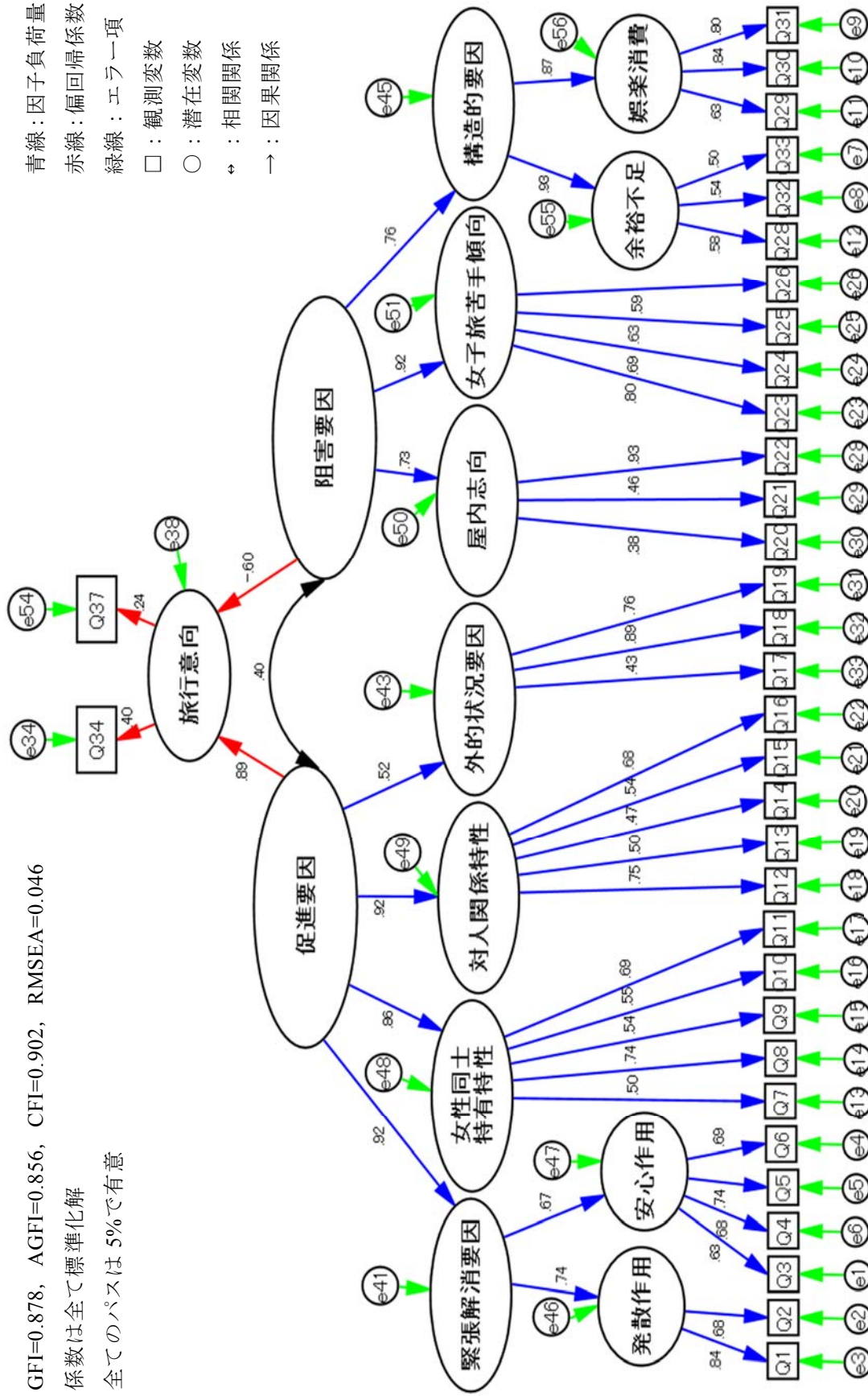


図 4-1 共分散構造分析の最終モデル

表 4-1 最終モデルでの潜在変数と観測変数

潜在変数		設問（観測変数）*		
促進要因	緊張解消要因	発散作用	Q1	
			Q2	
		安心作用		Q3
				Q4
				Q5
				Q6
	女性同士特有特性		Q7	
			Q8	
			Q9	
			Q10	
			Q11	
			Q12	
	対人関係特性		Q13	
			Q14	
			Q15	
			Q16	
			Q17	
			Q18	
	阻害要因	外的状況要因		Q19
			Q20	
			Q21	
屋内志向			Q22	
			Q23	
		女子旅苦手傾向		Q24
				Q25
				Q26
構造的要因		余裕不足		Q28
				Q32
			Q33	
	娯楽消費		Q29	
			Q30	
		Q31		
旅行意向			Q34	
			Q37	

\*対応する内容は表 2-4 参照

なり、モデルが複雑であることや観測変数が多いことを考慮すると<sup>1)</sup>、一定の適合度を示したといえる。

#### 4-2 モデルの修正に関する考察

4-1 でモデルの修正結果を示した順に、考察を示す。

- ① 旅行意向から Q35「なるべく安く行きたい」のパスが有意でないことから、本モデルでは女子大学生が女子旅に行きたいと考える時に、金額は影響しているとはいえないということが明らかとなった。
- ② ①と同様に、Q36「SNSなどで友達が行っていた場所に行きたい」のパスが有意でないことから、本モデルでは SNS で誰かが行っているのを見たから女子旅に行きたいという考えがあるとはいえないことが明らかとなった。
- ③ 娯楽追求要因から女性同士特有特性のパスが有意でないことから、女性同士特有特

- 性は係数が 0.86 と高い数値であるが、同じ娯楽追求要因である対人関係特性のパス係数が最も高く、同じ要因に統合することができなかったと考えられる。対人関係特性のウェイトは、促進要因の中で緊張解消要因と同様に最も高いパス係数を示した。つまり、2つの潜在変数の内容を合わせた「気を許すことができる友人と過ごすこと」には及ばないため娯楽追求要因に統合することができなかったと考える。
- ④ 阻害要因から個人内要因へのパスが不適解となり、個人内要因を分析から外した。本モデルでは、個人内要因の女子旅苦手傾向が、阻害要因の中で顕著に大きなパス係数を示した (0.92) ために同じ要因に統合することができなかったと考えられる。
  - ⑤ 阻害要因から構造的要因へのパスが有意でなかったため、構造的要因の中でお金に関する観測変数と時間に関する観測変数に分類をしていたものを再分類した。これは本モデルでは、女子大学生はお金と時間に分けて、旅行への意向を考えているとは言えないということである。構造的要因の6つの観測変数は、修正指数を参考に、お金と時間に余裕がない「余裕不足」と、お金や時間はあるが女子旅以外の娯楽や将来に使いたいと考える「娯楽消費」に分類した。
  - ⑥ 女子旅苦手傾向から Q27「写真を撮り SNS に載せる等といった行為が苦手」へのパスが不適解であったため、本モデルでは自分が女子旅に行きたいか行きたくないかを考える際に、写真が SNS に載せられるか否かは考慮されるほどの問題ではなかったと考える。

#### 4-3 最終モデルに基づいた女子大学生の女子旅に対する意識の考察

##### 4-3-1 モデル全体

最終モデルが一定の適合度を示したことから、本研究により女子大学生の女子旅意向は促進要因と阻害要因により規定されることが明らかとなった。その中でも、既存研究では分析されていなかった促進要因の存在が、本研究により定量的に明らかとなった。また、促進要因は緊張解消要因、女性同士特有特性、対人関係特性、および外的状況要因で構成され、阻害要因は屋内志向、女子旅苦手傾向、および構造的要因で構成されることも示された。阻害要因の女子旅苦手傾向は、既存研究<sup>2), 3), 4), 5), 6), 7)</sup>とは異なり本研究の着眼点である女子旅ならではの変数がモデルに構成されたといえる。

##### 4-3-2 旅行意向へ直接影響を与える潜在変数

本研究のモデルでは、旅行意向には阻害要因 (-0.60) より促進要因 (0.89) の方が強いかつ正の影響があることが示された。要因間の差の有無について検定を行った結果、F値は 5.167 で 1%有意となった。つまり、女子大学生は「女子旅に行きたい」と思える促進要因が増加する、または促進要因の内容が向上したり推進されたりすることにより、旅行意向がより大きくなると考えられる。一方、促進要因より影響は小さいが、阻害要因に関しても大きな負の影響があるため解決が求められる。また、促進



要因と阻害要因の相関係数は 0.4 であり、やや相関がある。

#### 4-3-3 促進要因

次に、促進要因の下部の変数（因子分析）について考察する。促進要因に構成された 4 つの潜在変数が、影響を及ぼす観測変数により、促進要因に関する 3 つの要因が示された。まず、緊張解消要因に構成される観測変数の結果より、発散できる環境や遠慮せず食べることができるなどの安心感が保たれるような状況が必要ということである。次に、女性同士特有特性と対人関係特性に構成される観測変数の結果より、周囲を気にせず喋ることができる環境を現状のまま維持する必要があるということである。最後に、外的状況要因に構成される観測変数の結果より、女子旅を歓迎する観光地や宿泊施設の更なる増加が必要ということである。4-3-2 で述べたように、これら 3 つの促進要因が向上するまたは推進されることが女子大学生の女子旅意向の向上に求められている。

#### 4-3-4 阻害要因

4-3-3 同様、阻害要因の下部の変数（因子分析）について考察する。阻害要因においても、観測変数より 3 つの要因が示された。まず、屋内志向より、女子大学生が女子旅に行くこと自体が面倒であると感じているため、女子旅に行きたいと思ってもらうために女子旅の良さを強調することや、女子旅の欠点の解決が必要ということである。次に、女子旅苦手傾向より、女性同士が自然と話題にする恋愛話や愚痴を女子大学生同士が共感し合えるようにする必要があるということである。最後に構造的要因より、女子大学生の消費を旅行に向ける必要があるということである。これら 3 つの阻害要因の解決が、女子大学生の女子旅意向の向上に求められている。

#### 4-3-5 旅行意向

最後に、重回帰分析部分である旅行意向の観測変数とモデルとの関連性について述べる。2 つの観測変数（アンケート項目の Q34・Q37）のパス係数を比較すると、Q34「交通手段にお金をかけず旅行内容にお金をかけたい」は Q37 の「SNS に自分も女子旅に行ったことを投稿したいから行きたい」より説明力が高いことが示された。一方で、Q34 より Q37 のパス係数が低いことから、このモデルに構成された観測変数（アンケート項目内容）では説明力が低く、本アンケートで調査しなかった要因の影響があり得る。

#### <参考文献>

- 1) 豊田秀樹：共分散構造分析[入門編]—構造方程式モデリング—，朝倉書店，p.174 (1998)

- 2) 日比野直彦・佐藤真理子：若者と旅—若年層の国内観光行動の時系列分析—, 国際交通安全学会誌, 37(2), pp.142-150 (2012)
- 3) 奥山忠裕・日比野直彦・森地茂：若年層の観光活動の減少要因に関する研究, 運輸政策研究, 13(3), pp.75-84 (2010)
- 4) 田中良典・井出明：テキストマイニングによる若者の観光需要の推定～大学生のライフスタイルに着目して～, 情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ研究会報告, 2011-CH-90(10), pp.1-8 (2011)
- 5) 金川由紀：大学生の旅行ばなれ現象に関する検証～国内旅行における温泉の魅力～, 日本観光研究学会第25回全国大会論文集, pp.213-216 (2010)
- 6) 金春姫・鎌田裕美：若者の旅行に対する意識, 成城大學經濟研究, 188, pp.177-191 (2010)
- 7) 林幸史：観光行動の促進要因と阻害要因—JGSS-2010のデータを用いて—, 日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集, 11, pp.59-69 (2012)

## 第五章 結論と今後の課題

### 5-1 本論文のまとめ

第一章では、国内旅行の現状、女子旅の現状、若年層の旅行の現状についての先行研究、および本研究の目的・意義について述べた。

第二章では、本研究の研究手法や研究対象、仮説モデル、アンケート調査の概要について述べた。本研究では、アンケート調査を実施し、共分散構造分析を用いて女子大学生の女子旅に対する意識を分析した。研究対象は滋賀県の4年制大学に通う女子大学生とした。

第三章では、アンケート調査の単純集計結果とその考察を示した。各設問の結果より、女子大学生は国内旅行に行く回数は多いが、有職者女性と比較すると女子旅経験者や女子旅に行く回数は少なく、より大人数で行く女子旅を好むことが明らかとなった。

第四章では、共分散構造分析の結果、およびモデルの修正と最終モデルに基づく女子大学生の女子旅に対する意識に関する考察を述べた。仮説モデルの適合度が低かったため修正を行った結果、一定の適合度を持った最終モデルが構築された。その最終モデルより、女子大学生の女子旅意向は促進要因と阻害要因によって規定され、その中でも、特に既存研究では分析されていなかった促進要因の存在を定量的に明らかにすることができた。そして、促進要因は4つの潜在変数、阻害要因は3つの潜在変数によって構成されることが明らかとなった。また、分析の結果、女子大学生の女子旅に対する意識は促進要因の方が阻害要因より大きく影響していることが明らかとなった。

### 5-2 結論

以上の分析より、女子旅に行く大学生を増加させ、持続可能な観光を実現するために現在の女子旅を改善する方法を4つ提案する。

- ① 催行人数の結果において、女子大学生は女子旅に自分を含めた3人以上で行く傾向があったことから、3人以上で参加すると特典のあるプランを増やす。
- ② 女子旅では喋ることが重要であることから、ホテル滞在可能時間を長くするプランや、外出せずに飲食物を購入できる宿泊施設を増やすことによって、女子大学生が、外的状況を気にせず喋ることができる環境作りをする。
- ③ 旅行にお金を使いたいと思ってもらうために、大学生である時期に行く、女子旅をはじめとする旅行が、「今しかできない旅行」ということを伝えていく。旅行・観光消費動向調査<sup>1)</sup>によると、若年層の国内観光旅行満足度や再来訪意向は、参加者の減少とは反対に全年齢層で最も高い。このことから、旅行で得られる満足度は、旅行以外の余暇活動では代替できないものが多くあると考えられる。感受性豊かで、比較的時間的制約の少ない大学生である期間しかできないことを知らせていくこ

とで、女子大学生の消費生活の中で旅行の優先順位をあげることができるだろう。

- ④ 女性同士の会話での不満については、女子大学生自身による改善が必要である。例えば、一緒にいるメンバーによって話す内容に分別をつける、一緒に共感し楽しむことのできるメンバーを選別して旅行に行く、などである。女子大学生が各々気遣いをすることによって、解決できる阻害要因であると考えられる。

### 5-3 今後の課題

本研究では、女子大学生の旅行意向を明らかにするために、女子大学生を対象として調査を行った。しかし、女子大学生の意向をより明確にするためには、他の年代と比較をする必要があったと考える。女子旅実施率は30代女性の方が高いため<sup>2)</sup>、30代女性にも同様の調査をし、女子旅に対する意向を比較することにより、女子大学生の女子旅意向の特徴を明確にすることができるであろう。

また、現在SNSは女子大学生の日常生活における情報伝達ツールとして積極的に利用され、対人関係を広げる役割を持っている<sup>3)</sup>。しかし、4-3-5より今回の調査では旅行意向を説明する促進要因と阻害要因にSNSに関する質問項目が少なかったため、旅行意向のSNSに関する観測変数間に相関が表れなかった可能性がある。女子大学生とSNSの関係性は女子旅とSNSの関係性にも強く関係している可能性があるため、質問項目を変更・追加して調査をする必要がある。そうすることによって、SNSと女子旅の関係性をより明確にできるであろう。

#### <参考文献>

- 1) 国土交通省観光庁：旅行・観光消費動向調査～国内旅行の満足度・再来訪意向をはじめととりまとめました～<<http://www.mlit.go.jp/common/000233469.pdf>>，2014-1-21
- 2) 全日本空輸株式会社：2011年は「女子会」から「女子旅」へ！～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～<<http://www.ana.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf>>，2014-1-17
- 3) 尾上恵子：女子学生の間関係構築における諸要因について，一宮女子短期大学紀要，46，pp.15-22 (2007)

## 謝辞

本論文を締めくくるにあたり、終始親身になってご指導してくださいました松本健一先生に心より感謝いたします。最終発表を含めた4回の発表に毎回違うテーマで臨んでしまい、なかなか研究内容が定まらず、一体自分は何の研究をしたいのか、環境政策・計画学科らしい研究とは何かと悩み1年半を過ごしてきました。しかし、その度に先生はいつも私のために貴重な時間を割いてくださり、真剣に私の論文に向き合ってくれました。先生に教わった多くのことを、今後も決して忘れません。

また、査読を担当していただいた村上一真先生には、大変お世話になりました。村上一真先生の専門である共分散構造分析について、知識の乏しい私のために初心者でも分かるような参考書を教えて下さるなど、いつも丁寧にご指導をしてくれました。また、お忙しい時も最終発表前の残りわずかな時間でさえも、相談させていただく時間をとって下さり、丁寧にご指導していただけたことを深く感謝しております。

そして、調査に協力をして下さった滋賀県に所在する8大学の関係者様や実際にアンケートに回答して下さいました女子大学生の皆様には、他大学の学生の卒業研究にお忙しい時間を割いて協力して下さいましたことを感謝しています。また、アンケート票の配布や実際に調査地でのアンケート票配布に協力してくれた友人たちには、感謝の言葉しかありません。友人たちの協力もあって、残り少ない研究期間であっても、調査をよりスムーズに進めることができました。

私にとってたった一人の同じ研究室の学生である中田沙羅さんには、論文に関することはもちろん、私生活のあらゆる場面でも助けてもらいました。楽しい時も辛い時もいつも一緒に、まるで自分の研究かのようにいつも私のことを気にかけてくれました。自分のことしか考えられず、中田さんにたくさんの迷惑をかけてしまった時もありましたが、いつも快く相談に乗ってくれたことが非常に嬉しかったです。私が研究に対して最後まで諦めず前向きに取り組むことが出来たのは、中田さんの存在は大きかったと考えています。ありがとうございました。

最後に、これまで私を育て、4年間大学に通わせてくれた両親には心から感謝しています。苦しい時、不安な時、悲しい時、いつも家に帰ると両親が相談に乗ってくれました。卒業研究という私に大きくのしかかっていたものは、いつも両親の一言で少し軽く感じる事ができていたように思います。

本当にありがとうございました。

安積 晴香



# 付 録





## 付 録 目 次

- A アンケート調査用紙
- B 問 8 の単純集計結果
- C 問 8 の相関行列表・無相関の検定結果
- D Web ページの引用



# 女子旅に関するアンケート

滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科

松本研究室 4 回生 安積 晴香

お問い合わせ先

oz13hazumi@ec.usp.ac.jp

※ご不明な点がございましたら上記アドレスまでメールにてお問い合わせ下さい。

## ご協力いただく皆様へ

これは、女子旅に対する皆様の考えを調査することを目的としたアンケートです。

このアンケートで「女子旅」とは、年齢は問わず 2 人以上の女性だけで行く旅行を指します。

お忙しいところ誠に申し訳ございませんが、ご協力よろしくお願いします。

なお、このアンケート調査は無記名式であり、皆様の回答はすべて統計的に処理した上で、その結果のみ使用させていただきます。ぜひ、率直な意見をお聞かせ下さい。

## ※アンケート回答前に必ずこちらをお読み下さい。

- ・このアンケートには女性がお答え下さい。
- ・このアンケートではすべて国内旅行が対象です。
- ・このアンケートは両面印刷になっています。ご注意ください。

(所要時間は 4~5 分程度です)

問 1 学年についてあてはまるものに 1 つ○をつけてください

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. 1 年生 | 2. 2 年生   |
| 3. 3 年生 | 4. 4 年生以上 |

問 2 所属学部をご記入ください。

( \_\_\_\_\_ ) 学部

問 3 出身地はどちらですか？都道府県名をご記入ください。

( \_\_\_\_\_ ) 都道府県

問 4 あなたは女子旅に行ったことがありますか。あてはまるほうに○をつけてください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1. 行ったことがある | 2. 行ったことがない |
|-------------|-------------|

問 5 あなたは、大学生になって平均で 1 年に何回、国内旅行(※)に行きましたか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- |                 |          |          |          |
|-----------------|----------|----------|----------|
| 1. 行かなかった→問 8 へ | 2. 1~2 回 | 3. 3~4 回 | 4. 5 回以上 |
|-----------------|----------|----------|----------|

問 6 あなたは、問 5 のうち何回、国内の女子旅に行きましたか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- |                 |          |          |          |
|-----------------|----------|----------|----------|
| 1. 行かなかった→問 8 へ | 2. 1~2 回 | 3. 3~4 回 | 4. 5 回以上 |
|-----------------|----------|----------|----------|

問 7 あなたが国内の女子旅に行く際、自分以外の何人と一緒に行くことが多いですか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

- |        |        |        |          |
|--------|--------|--------|----------|
| 1. 1 人 | 2. 2 人 | 3. 3 人 | 4. 4 人以上 |
|--------|--------|--------|----------|

※国内旅行とは、宿泊を伴う観光旅行(レクリエーション・スポーツなどのための旅行を含む)や帰省・訪問・合宿などの旅行、日常生活圏を離れて宿泊を伴わず半日以上かけて行うものをさします。また夜行日帰りも含まれます。

問 8 これから示す質問について、あなたの女子旅に対する考えを教えてください。ここでは、女子旅経験の有無は関係なく、単に女子旅への考えを聞かせて下さい。

回答方法は、「①まったくそうではない」「②どちらかといえばそうではない」「③どちらでもない」「④どちらかといえばそうである」「⑤まったくそのとおりである」の 5 段階で適する番号に○をつけてください。

質問項目	まったく そうではない	どちらかといえ ば そうではない	どちら でもない	ど ちら か と い え ば そ う で あ る	ま っ た く そ の と お り で あ る
女子旅は、ストレスを発散でき、活力をつけることができるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、日常とは違う環境なので、リフレッシュできるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性だけなので気兼ねなくトイレに行くことができ、安心できるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性だけなので男性を気にしたファッション(胸元や足元に気をつけるなど)をしなくてもよいところが楽でよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、男性の目を気にせず、食べたいものを遠慮なく食べることができるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性だけなので堂々とすっぴんを見せることができるところが楽でよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性同士なので一緒に温泉を楽しめるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性同士で一晩中喋ることができるところが楽しくてよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女子旅ならではのエステや浴衣レンタルなどを通して、普段より女性らしい気分を味わうことができるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性同士楽しくお酒を飲むことができるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、旅行の時間を美容やショッピングに使えるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、女性同士で話が合うところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、他の旅行より同行者を誘いやすいところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、同行者との予定が合わせやすいところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、同行者の近況情報や刺激が得られるところがよいと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、同行者との友情が深まるところがよいと思う	1	2	3	4	5
最近では、女性だけでも安全に旅行ができるようになったと思う	1	2	3	4	5
最近では、女子旅を歓迎する宿泊施設や観光地が多くなったように思う	1	2	3	4	5
最近では、旅行会社からの女子旅プランが多くなり、旅行しやすくなったように思う	1	2	3	4	5
女子旅に行くにあたって、移動手段として利用する鉄道や飛行機、バスなどの乗り物が苦手である	1	2	3	4	5
女子旅に行くにあたって、計画や手続きの情報収集が面倒である	1	2	3	4	5
女子旅に行くために、外出すること自体が面倒である	1	2	3	4	5
女子旅では、恋愛話や愚痴が多くくだらないと思う	1	2	3	4	5
女子旅は、盛り上がる会話の中で本音(悪口)に傷ついたりするので苦手である	1	2	3	4	5
女子旅での、女性同士の同調圧力には気疲れする	1	2	3	4	5
女子旅という名称が嫌いである	1	2	3	4	5

質問項目	まったく そうではない	どちらかといえ ばそうではない	どちらでもない	どちらかといえ ばそうである	まったく そのとおりである
写真を撮り SNS(※)に投稿されるなどといった行為が苦手である	1	2	3	4	5
女子旅に行くほどの、お金の余裕がない	1	2	3	4	5
女子旅より、将来のために貯金をしたいと思う	1	2	3	4	5
女子旅より、美容や趣味などの旅行以外のことに <u>お金</u> を使いたいと思う	1	2	3	4	5
女子旅より、美容や趣味などの旅行以外のことに <u>時間</u> を使いたいと思う	1	2	3	4	5
学業が忙しいので、女子旅に行けるほど時間に余裕がない	1	2	3	4	5
アルバイトが忙しいので、女子旅に行けるほど時間に余裕がない	1	2	3	4	5
交通手段にお金をかけずに、旅行内容にお金をかけた女子旅に行きたい	1	2	3	4	5
気の知れた女友達と旅の時間を過ごすことさえできればよいので、オプションはつけずにできるだけ安く女子旅に行きたい	1	2	3	4	5
SNS(※)やテレビで見た友達や芸能人が旅行に行っていた場所に、女子旅として行きたい	1	2	3	4	5
SNS(※)に自分も女子旅に行ったことを投稿したいから行きたい	1	2	3	4	5

(※)SNSとは twitter や Facebook などのことをさす。

以上で終了です。長い間、ご協力ありがとうございました。  
よろしければ、ご意見、ご感想などを以下にご記入ください。

B 問 8 の単純集計結果

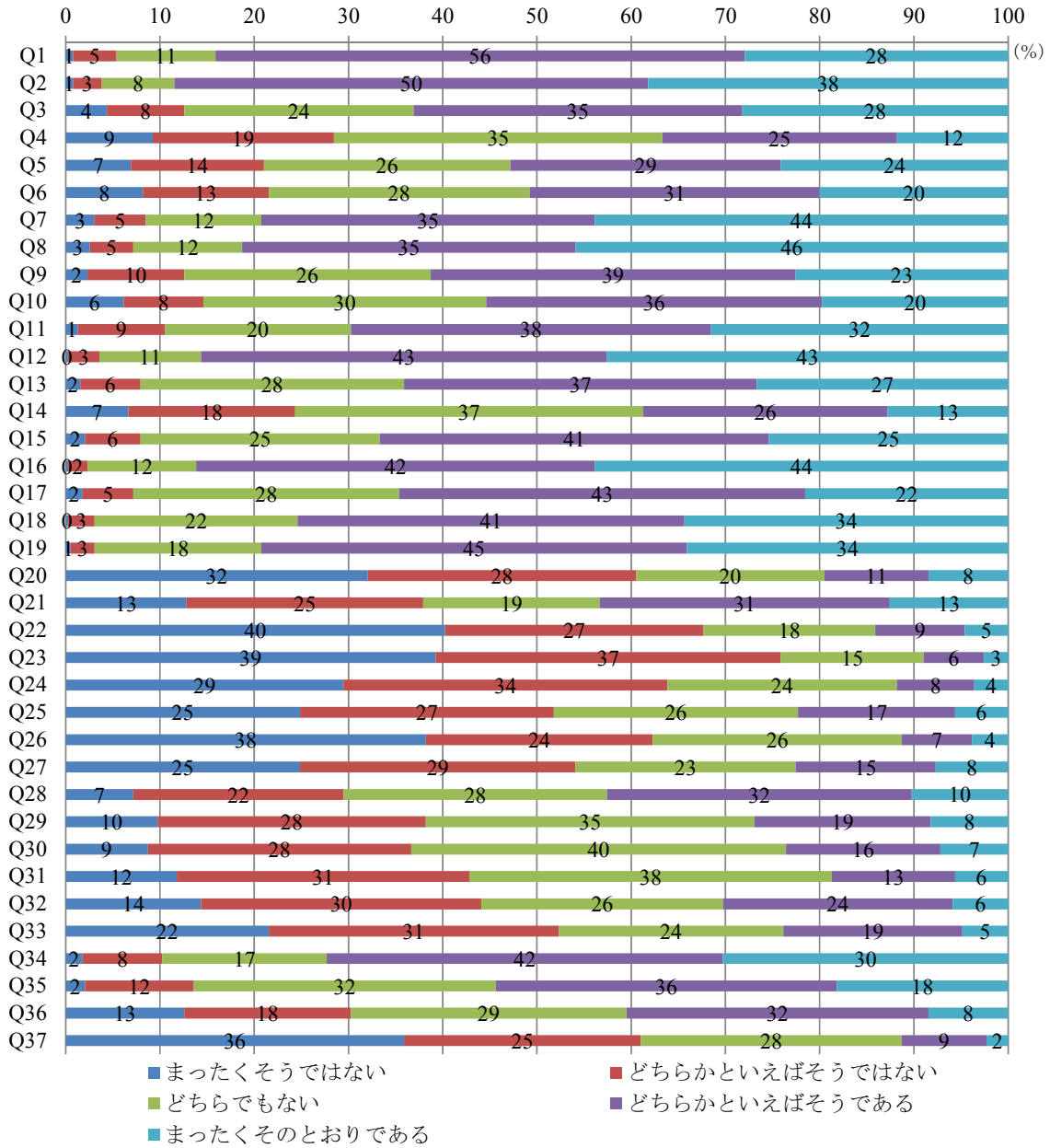


図 B-1 アンケートの単純集計結果

C 問 8 の相関行列表・無相関の検定結果

表 C-1 問 8 の相関行列表 (1/2)

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18
Q1	1																	
Q2	0.58	1																
Q3	0.30	0.25	1															
Q4	0.32	0.15	0.43	1														
Q5	0.30	0.19	0.31	0.52	1													
Q6	0.34	0.21	0.40	0.47	0.53	1												
Q7	0.34	0.29	0.22	0.27	0.27	0.35	1											
Q8	0.34	0.37	0.33	0.28	0.32	0.37	0.39	1										
Q9	0.22	0.24	0.29	0.19	0.12	0.21	0.26	0.37	1									
Q10	0.30	0.23	0.20	0.17	0.23	0.23	0.20	0.42	0.45	1								
Q11	0.29	0.26	0.28	0.16	0.26	0.21	0.16	0.31	0.41	0.39	1							
Q12	0.44	0.38	0.30	0.25	0.25	0.32	0.25	0.46	0.25	0.33	0.44	1						
Q13	0.21	0.18	0.23	0.21	0.24	0.21	0.11	0.24	0.22	0.27	0.34	0.43	1					
Q14	0.23	0.20	0.35	0.35	0.28	0.28	0.12	0.26	0.29	0.30	0.32	0.34	0.46	1				
Q15	0.26	0.28	0.21	0.22	0.20	0.20	0.13	0.38	0.31	0.28	0.26	0.37	0.29	0.43	1			
Q16	0.36	0.35	0.27	0.17	0.15	0.23	0.25	0.37	0.29	0.33	0.35	0.52	0.30	0.27	0.40	1		
Q17	0.19	0.12	0.22	0.21	0.16	0.19	0.21	0.17	0.23	0.13	0.10	0.20	0.23	0.26	0.19	0.28	1	
Q18	0.24	0.15	0.18	0.18	0.19	0.19	0.23	0.24	0.28	0.16	0.27	0.28	0.18	0.19	0.29	0.34	0.38	1
Q19	0.20	0.14	0.18	0.11	0.19	0.20	0.27	0.21	0.33	0.20	0.25	0.23	0.11	0.20	0.29	0.26	0.28	0.68
Q20	-0.01	-0.01	-0.06	-0.02	-0.07	-0.13	0.07	0.06	-0.02	0.02	-0.05	-0.03	0.01	-0.12	-0.004	0.04	0.03	0.005
Q21	0.09	0.01	-0.05	0.004	-0.08	-0.07	0.11	-0.10	0.02	-0.02	-0.06	-0.03	0.005	-0.13	-0.07	-0.02	0.01	0.01
Q22	0.19	0.21	0.11	0.11	-0.01	0.03	0.23	0.12	0.15	0.10	0.14	0.10	0.11	0.01	0.11	0.19	0.16	0.09
Q23	0.23	0.24	0.12	0.09	0.08	0.15	0.12	0.25	0.11	0.15	0.23	0.32	0.14	0.11	0.16	0.28	0.17	0.16
Q24	0.21	0.19	0.05	0.06	0.002	0.05	0.09	0.09	0.12	0.05	0.11	0.20	0.04	0.05	0.13	0.25	0.15	0.16
Q25	0.25	0.16	0.11	0.15	-0.002	0.14	0.12	0.09	0.09	0.04	0.13	0.15	0.04	0.10	0.03	0.20	0.17	0.03
Q26	0.24	0.18	0.11	0.13	0.10	0.16	0.20	0.17	0.14	0.12	0.22	0.22	0.13	0.08	0.14	0.27	0.16	0.20
Q27	0.19	0.18	0.07	0.06	0.11	0.16	0.17	0.15	0.05	0.13	0.19	0.14	0.05	0.03	0.06	0.13	0.10	0.15
Q28	0.04	0.08	0.03	-0.01	-0.10	0.01	0.07	-0.002	0.04	-0.07	-0.03	0.03	-0.04	0.01	0.02	0.14	0.15	0.08
Q29	0.15	0.11	-0.04	-0.04	-0.01	0.07	0.06	0.03	0.05	-0.06	0.02	0.01	-0.03	-0.18	-0.04	0.11	0.03	0.08
Q30	0.23	0.22	0.03	0.11	0.11	0.14	0.21	0.10	0.07	0.10	0.06	0.13	0.10	-0.02	0.07	0.10	0.09	0.11
Q31	0.22	0.17	0.06	0.09	0.08	0.11	0.11	0.04	0.03	0.01	0.04	0.12	0.03	-0.03	0.03	0.14	0.09	0.07
Q32	0.03	0.03	0.04	-0.06	-0.06	0.01	0.05	-0.0004	0.08	-0.01	-0.004	0.06	0.02	0.01	0.03	0.12	0.08	0.11
Q33	0.05	0.02	-0.06	-0.03	-0.07	-0.01	0.004	0.11	0.10	-0.003	-0.04	0.02	-0.03	-0.12	-0.04	0.04	-0.06	0.002
Q34	0.09	0.07	0.03	0.05	0.10	0.05	0.09	0.09	0.07	0.05	0.05	0.13	0.12	0.06	0.14	0.19	0.05	0.11
Q35	0.04	0.03	0.02	0.08	0.10	0.05	-0.02	0.06	-0.15	0.07	-0.01	0.07	0.06	0.14	0.10	0.06	-0.001	-0.03
Q36	0.22	0.17	0.04	0.15	0.11	0.15	0.12	0.12	0.14	0.12	0.19	0.21	0.19	0.16	0.14	0.16	0.17	0.15
Q37	0.11	0.08	0.10	0.16	0.16	0.19	0.07	0.05	0.08	0.14	0.15	0.09	0.12	0.25	0.05	0.09	0.14	0.08



表 C-1 問 8 の相関行列表 (2/2)

	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33	Q34	Q35	Q36	Q37
Q19	1																		
Q20	-0.05	1																	
Q21	0.05	0.34	1																
Q22	0.13	0.36	0.42	1															
Q23	0.12	0.19	0.23	0.50	1														
Q24	0.13	0.20	0.26	0.44	0.54	1													
Q25	-0.03	0.14	0.23	0.37	0.51	0.57	1												
Q26	0.16	0.06	0.12	0.35	0.47	0.41	0.38	1											
Q27	0.15	0.12	0.11	0.28	0.32	0.19	0.23	0.38	1										
Q28	0.03	0.21	0.29	0.35	0.29	0.29	0.33	0.21	0.21	1									
Q29	0.06	0.19	0.25	0.36	0.32	0.31	0.32	0.22	0.19	0.41	1								
Q30	0.09	0.10	0.24	0.39	0.38	0.33	0.30	0.33	0.24	0.37	0.52	1							
Q31	0.02	0.12	0.25	0.40	0.37	0.31	0.33	0.27	0.20	0.32	0.46	0.69	1						
Q32	0.09	0.17	0.21	0.21	0.29	0.26	0.26	0.20	0.14	0.43	0.32	0.34	0.38	1					
Q33	-0.01	0.16	0.18	0.21	0.24	0.22	0.17	0.16	0.10	0.29	0.34	0.33	0.35	0.50	1				
Q34	0.10	-0.05	-0.13	-0.11	-0.03	-0.07	-0.03	-0.04	-0.01	-0.16	-0.14	-0.06	-0.10	-0.07	-0.13	1			
Q35	-0.01	-0.13	-0.30	-0.20	-0.10	-0.16	-0.12	-0.03	-0.03	-0.17	-0.24	-0.19	-0.14	-0.17	-0.27	0.31	1		
Q36	0.15	-0.10	0.01	0.21	0.16	0.05	0.13	0.27	0.25	0.04	0.11	0.23	0.17	0.03	-0.04	0.11	0.01	1	
Q37	0.05	-0.15	-0.10	0.03	-0.03	-0.07	0.04	0.12	0.26	-0.03	-0.07	0.05	-0.01	-0.01	-0.14	0.08	0.08	0.47	1

表 C-2 無相関の検定結果 (1/2)

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18
Q2	0.0003																	
Q3	0.09	0.15																
Q4	0.06	0.40	0.01															
Q5	0.08	0.28	0.07	0.002														
Q6	0.05	0.23	0.02	0.01	0.001													
Q7	0.05	0.10	0.21	0.13	0.13	0.04												
Q8	0.05	0.03	0.05	0.11	0.07	0.03	0.02											
Q9	0.20	0.17	0.09	0.29	0.49	0.24	0.14	0.03										
Q10	0.09	0.18	0.25	0.33	0.19	0.20	0.27	0.01	0.01									
Q11	0.10	0.14	0.11	0.36	0.14	0.23	0.36	0.08	0.02	0.02								
Q12	0.01	0.03	0.09	0.16	0.15	0.06	0.16	0.01	0.16	0.05	0.01							
Q13	0.24	0.32	0.18	0.22	0.18	0.24	0.53	0.17	0.22	0.12	0.05	0.01						
Q14	0.19	0.27	0.05	0.04	0.10	0.10	0.51	0.14	0.09	0.08	0.07	0.05	0.01					
Q15	0.14	0.11	0.23	0.21	0.25	0.26	0.47	0.03	0.07	0.10	0.14	0.03	0.09	0.01				
Q16	0.04	0.04	0.12	0.32	0.39	0.19	0.16	0.03	0.09	0.06	0.04	0.002	0.08	0.12	0.02			
Q17	0.28	0.52	0.21	0.22	0.37	0.28	0.22	0.34	0.20	0.46	0.56	0.25	0.20	0.14	0.27	0.11		
Q18	0.17	0.39	0.30	0.31	0.29	0.29	0.20	0.17	0.11	0.36	0.12	0.10	0.30	0.29	0.09	0.05	0.03	
Q19	0.26	0.44	0.32	0.54	0.29	0.26	0.13	0.23	0.05	0.25	0.15	0.20	0.52	0.25	0.10	0.14	0.10	0.00001
Q20	0.93	0.96	0.72	0.91	0.71	0.47	0.71	0.74	0.89	0.90	0.78	0.87	0.97	0.52	0.98	0.84	0.89	0.98
Q21	0.83	0.95	0.77	0.98	0.64	0.71	0.53	0.59	0.91	0.89	0.74	0.88	0.98	0.48	0.69	0.90	0.95	0.96
Q22	0.29	0.24	0.55	0.54	0.94	0.85	0.18	0.50	0.38	0.58	0.43	0.56	0.54	0.96	0.55	0.28	0.36	0.60
Q23	0.20	0.17	0.50	0.60	0.64	0.40	0.49	0.16	0.54	0.41	0.19	0.06	0.42	0.54	0.35	0.11	0.33	0.37
Q24	0.23	0.27	0.78	0.74	0.99	0.78	0.61	0.62	0.51	0.77	0.53	0.27	0.83	0.77	0.45	0.15	0.41	0.36
Q25	0.15	0.35	0.53	0.40	0.99	0.42	0.49	0.61	0.62	0.82	0.48	0.41	0.83	0.57	0.88	0.26	0.34	0.85
Q26	0.16	0.31	0.53	0.48	0.59	0.38	0.27	0.32	0.43	0.52	0.21	0.22	0.46	0.65	0.43	0.13	0.37	0.26
Q27	0.29	0.32	0.71	0.75	0.54	0.36	0.33	0.39	0.80	0.47	0.28	0.42	0.78	0.89	0.75	0.47	0.57	0.39
Q28	0.82	0.65	0.85	0.97	0.57	0.96	0.70	0.99	0.84	0.69	0.88	0.88	0.84	0.93	0.92	0.43	0.41	0.67
Q29	0.41	0.55	0.83	0.84	0.96	0.67	0.73	0.85	0.80	0.74	0.89	0.95	0.86	0.32	0.82	0.54	0.87	0.63
Q30	0.20	0.22	0.87	0.54	0.53	0.44	0.24	0.56	0.69	0.57	0.72	0.48	0.59	0.90	0.68	0.56	0.62	0.53
Q31	0.20	0.32	0.73	0.61	0.66	0.52	0.55	0.80	0.87	0.96	0.82	0.49	0.88	0.85	0.87	0.44	0.61	0.70
Q32	0.89	0.85	0.82	0.74	0.74	0.97	0.76	1.00	0.67	0.94	0.98	0.74	0.92	0.96	0.89	0.48	0.65	0.54
Q33	0.77	0.90	0.72	0.86	0.71	0.96	0.98	0.53	0.59	0.98	0.81	0.91	0.84	0.51	0.82	0.81	0.74	0.99
Q34	0.62	0.70	0.89	0.78	0.58	0.76	0.61	0.62	0.70	0.79	0.77	0.45	0.50	0.75	0.43	0.27	0.78	0.52
Q35	0.83	0.86	0.89	0.67	0.59	0.78	0.91	0.72	0.40	0.69	0.97	0.71	0.74	0.43	0.57	0.76	1.00	0.87
Q36	0.21	0.33	0.81	0.40	0.53	0.40	0.51	0.49	0.43	0.50	0.29	0.24	0.29	0.35	0.43	0.35	0.34	0.41
Q37	0.55	0.66	0.58	0.38	0.38	0.29	0.71	0.80	0.65	0.43	0.40	0.63	0.51	0.15	0.78	0.60	0.45	0.63

表 C-2 無相関の検定結果 (2/2)

	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33	Q34	Q35	Q36
Q20	0.77																	
Q21	0.80	0.05																
Q22	0.45	0.04	0.01															
Q23	0.50	0.29	0.20	0.003														
Q24	0.45	0.25	0.14	0.01	0.001													
Q25	0.89	0.43	0.19	0.03	0.002	0.0004												
Q26	0.35	0.74	0.49	0.04	0.01	0.01	0.03											
Q27	0.40	0.50	0.54	0.10	0.06	0.28	0.18	0.03										
Q28	0.87	0.24	0.09	0.04	0.10	0.09	0.06	0.24	0.23									
Q29	0.75	0.29	0.15	0.04	0.06	0.08	0.06	0.22	0.27	0.02								
Q30	0.61	0.58	0.17	0.02	0.03	0.06	0.09	0.06	0.17	0.03	0.002							
Q31	0.91	0.51	0.16	0.02	0.03	0.07	0.06	0.12	0.25	0.06	0.01	0.00001						
Q32	0.62	0.34	0.24	0.24	0.09	0.14	0.13	0.25	0.42	0.01	0.07	0.05	0.03					
Q33	0.96	0.36	0.30	0.24	0.17	0.21	0.34	0.37	0.59	0.09	0.05	0.06	0.04	0.003				
Q34	0.58	0.77	0.47	0.54	0.85	0.71	0.84	0.83	0.97	0.36	0.43	0.73	0.58	0.67	0.48			
Q35	0.93	0.47	0.09	0.25	0.56	0.38	0.50	0.85	0.88	0.33	0.18	0.27	0.42	0.33	0.13	0.08		
Q36	0.41	0.59	0.93	0.23	0.37	0.79	0.45	0.12	0.15	0.80	0.52	0.20	0.33	0.87	0.81	0.55	1.00	
Q37	0.78	0.40	0.59	0.87	0.86	0.70	0.84	0.51	0.13	0.87	0.71	0.79	0.96	0.96	0.45	0.63	0.65	0.004

## D Web ページの引用

読売新聞：女子旅の誘客本格化

< [http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tochigi/feature/utunomiya1348851061554\\_02/news/20121016-OYT8T00156.html](http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/tochigi/feature/utunomiya1348851061554_02/news/20121016-OYT8T00156.html) >



YOMIURI ONLINE 読売新聞

車が、保険会社と直接連絡を取り合えたら、

地域 栃木

ホーム 社会 スポーツ マナー・経済 政治 国際 環境

栃木トップ 企画・連載 栃木の写真 栃木の天気 イベント情報 リンク

ホーム > 地域 > 栃木 > 企画・連載

企画・連載 一覧

郷土再生 観光 一覧

### 女子旅の誘客本格化

ツイートする おすすめ 0 チェック ?

#### 寺社、アウトドア…魅力活用

写真の拡大

「お昼はゆば料理を食べよう」「写真はどこで撮ろうか」

3連休初日の今日6日、飲食店が立ち並び日光市の世界遺産「二社一寺」へと続く参道を、赤や青の鮮やかな花柄の着物を着た女性3人がおしゃべりを楽しみながら、歩いていた。

神奈川県小田原市から1泊2日のツアーで日光東照宮や華厳滝を回る予定の3人は、大学時代にアルバイト先で知り合い、年数回は旅行に出かける仲良しだ。着物は日光市内の着物レンタル店で借りたという。

公務員の夏目桃子さん(23)が「女子同士だから、何でも話することができるし、着物を着る楽しみも共有できる」と笑顔を見せれば、日光は小学校の修学旅行以来という会社員の古山友美さん(25)は「子どもの頃はよくわからなかった歴

全日本空輸株式会社：2011年は「女子会」から「女子旅」へ！～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～

< <http://www.ana.co.jp/pr/11-0103/pdf/11-041.pdf> >

ANA NEWS

ANA  
第11-041号  
2011年3月2日

### 2011年は「女子会」から「女子旅(ジョシタビ)」へ！ ～女性の「旅行」に関する意識調査を実施～

ANAはこの度、20～39歳の有職者女性500名に対して、「旅行」に関する意識調査を実施し、調査結果をまとめた(アンケート協力会社：トレンドズ株式会社)。

この調査により、74%の女性が「今年の春、女子旅行したい」と考えており、現代女性の旅行における傾向や、今年の春の旅行の動向などが明らかになりました。

ANAは国内線割引航空券「旅割」のWEBプロモーションサイト「旅割REVIEW」にて、『女子会』を旅先のイベントとして提案する特別コンテンツを提供しております。「旅割REVIEW」は、全国47都道府県を擬人化した“旅ガール”が、旅先で「女子会」を開催する映像を公開しており、「南国カフェ女子会」、「かりゆし女子会」、「乗馬女子会」など、ユニークな女子会プランを多数紹介しています。

今年の春、「女子旅」をお得で楽しい旅行にするために、ぜひ「旅割REVIEW」の女子会コンテンツや、「旅割」「スーパー旅割」などの割引航空券をご利用ください。

「旅割REVIEW」  
<http://tabiwari-review.jp/>

